

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	学部設置							
フリガナ設置者	ガッコウホクサイン トカイイブク 学校法人 東海大学							
フリガナ大学の名称	トカイイブク 東海大学 (Tokai University)							
大学本部の位置	神奈川県平塚市北金目4-1-1							
大学の目的	本学は、人道に根ざした深い教養をもつ有能な人材を養成すると同時に、高度の学問技術を研究教授することにより、人類社会の福祉に貢献することをもって目的とする。							
新設学部等の目的	本学部は、子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割を理解し、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識・技能を基盤として、子どもの多様な発達と学びを総合的かつ連続的に捉える視野を持ち、そこで見出した社会・地域の課題に他者と協働的に向き合い、解決に向けて取り組むことのできる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	児童教育学部 [Undergraduate School of Childhood Education]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	
	児童教育学科 [Department of Childhood Education]	4	150	—	600	学士（児童教育学） [Bachelor of Childhood Education]	令和4年4月 第1年次	神奈川県平塚市 北金目4-1-1
計		150	—	600				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	別紙のとおり							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	児童教育学部児童教育学科	48科目	63科目	17科目	128科目	124単位		

教	員	組	の	概	要	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼任 教員							
							教授	准教授	講師	助教	計	助手								
							人	人	人	人	人	人	人	人						
新	設	分				児童教育学部児童教育学科	9 (8)	6 (5)	5 (4)	1 (1)	21 (18)	0 (0)	23 (9)							
						経営学部経営学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	21 (21)	令和3年4月届出予定						
						国際学部国際学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	16 (16)	令和3年4月届出予定						
						情報理工学部情報メディア学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	16 (16)	令和3年4月届出予定						
						情報通信学部情報通信学科	10 (10)	7 (7)	6 (6)	1 (1)	24 (24)	0 (0)	15 (15)	令和3年4月届出予定						
						工学部生物工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	37 (37)	令和3年4月届出予定						
						工学部機械システム工学科	5 (5)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	27 (27)	令和3年4月届出予定						
						工学部医工学科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	51 (51)	令和3年4月届出予定						
						建築都市学部建築学科	8 (8)	5 (5)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	令和3年4月届出予定						
						建築都市学部土木工学科	5 (5)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	21 (21)	令和3年4月届出予定						
						人文学部人文学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	21 (21)	令和3年4月届出予定						
						海洋学部海洋理工学科	15 (15)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	71 (71)	令和3年4月届出予定						
						文理融合学部経営学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	19 (19)	令和3年4月届出予定						
						文理融合学部地域社会学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	25 (25)	令和3年4月届出予定						
						文理融合学部人間情報工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	21 (21)	令和3年4月届出予定						
						農学部農学科	4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	23 (23)	令和3年4月届出予定						
						農学部動物科学科	4 (4)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	25 (25)	令和3年4月届出予定						
						農学部食生命科学科	5 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	35 (35)	令和3年4月届出予定						
													計	126 (125)	65 (64)	41 (40)	8 (8)	240 (237)	0 (0)	— (—)
						既	設	分				文学部文学科	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	14 (14)	
文学部歴史学科	8 (8)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	15 (15)							0 (0)	23 (23)							
文学部日本文学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)							0 (0)	16 (16)							
文学部英語文化コミュニケーション学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)							0 (0)	8 (8)							
文化社会学部アジア学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)							0 (0)	20 (20)							
文化社会学部ヨーロッパ・アメリカ学科	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)							0 (0)	12 (12)							
文化社会学部北欧学科	3 (3)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	6 (6)							0 (0)	7 (7)							
文化社会学部文芸創作学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)							0 (0)	3 (3)							
文化社会学部広報メディア学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)							0 (0)	2 (2)							
文化社会学部心理・社会学科	7 (7)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	11 (11)							0 (0)	13 (13)							
政治経済学部政治学科	10 (10)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (14)							0 (0)	5 (5)							
政治経済学部経済学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	14 (14)							0 (0)	11 (11)							
法学部法律学科	12 (12)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	20 (20)							0 (0)	2 (2)							
教養学部人間環境学科	9 (9)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	15 (15)							0 (0)	27 (27)							
教養学部芸術学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)							0 (0)	88 (88)							
体育学部体育学科	10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)							0 (0)	5 (5)							
体育学部競技スポーツ学科	6 (6)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (11)							0 (0)	11 (11)							
体育学部武道学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)							0 (0)	10 (10)							
体育学部生涯スポーツ学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)							0 (0)	6 (6)							
体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)							0 (0)	1 (1)							

教	既	健康学部健康マネジメント学科	10 (10)	6 (6)	6 (6)	2 (2)	24 (24)	0 (0)	2 (2)
		理学部数学科	6 (6)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	3 (3)
員		理学部情報数理学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		理学部物理学科	11 (11)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	12 (12)
		理学部化学科	9 (9)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		理学部 基礎教育研究室	2 (2)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		情報理工学部情報科学科	6 (6)	1 (1)	2 (2)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	8 (8)
		情報理工学部コンピュータ応用工学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
		工学部応用化学科	6 (6)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	3 (3)
		工学部電気電子工学科	8 (8)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		工学部機械工学科	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	13 (13)
		工学部航空宇宙学科	12 (12)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	18 (18)	0 (0)	5 (5)
		観光学部観光学科	7 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	10 (10)
		海洋学部水産学科	7 (7)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	11 (11)
		海洋学部海洋生物学科	8 (8)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	5 (5)
		海洋学部 海洋フロンティア教育センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	7 (7)
		医学部医学科	127 (127)	106 (106)	205 (205)	396 (396)	834 (834)	0 (0)	131 (131)
		医学部看護学科	8 (8)	8 (8)	14 (14)	4 (4)	34 (34)	0 (0)	47 (47)
		国際文化学部地域創造学科	9 (9)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	14 (14)
		国際文化学部国際コミュニケーション学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	11 (11)	0 (0)	9 (9)
		生物学部生物学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	14 (14)
		生物学部海洋生物科学科	5 (5)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		計	402 (402)	234 (234)	292 (292)	411 (411)	1339 (1339)	0 (0)	—
		現代教養センター	4 (4)	12 (12)	5 (5)	1 (1)	22 (22)	0 (0)	20 (20)
		国際教育センター	17 (17)	20 (20)	20 (20)	3 (3)	60 (60)	0 (0)	160 (160)
		情報教育センター	2 (2)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	19 (19)
		課程資格教育センター	6 (6)	7 (7)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	46 (46)
		先進生命科学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		教育開発研究センター	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		スポーツ医科学研究所	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		情報技術センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		総合社会科学研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		高輪教養教育センター	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	43 (43)
		清水教養教育センター	9 (9)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	55 (55)
		海洋研究所	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		総合医学研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		九州教養教育センター	4 (4)	8 (8)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	23 (23)
		総合農学研究所	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		札幌教養教育センター	7 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	33 (33)
		計	(64) (64)	(66) (66)	(47) (47)	(8) (8)	(185) (185)	(0) (0)	—
		合 計	592 (591)	365 (364)	380 (379)	427 (427)	1764 (1761)	0 (0)	—

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		779 (779)	269 (269)	1048 (1048)					
	技 術 職 員		57 (57)	2 (2)	59 (59)					
	図 書 館 専 門 職 員		44 (44)	22 (22)	66 (66)					
	そ の 他 の 職 員		8 (8)	0 (0)	8 (8)					
	計		888 (888)	293 (293)	1181 (1181)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	東海大学付属望星高等学校と共用 名称：東海大学付属望星高等学校（通信制） 収容定員：3,000名 校地面積基準：なし				
	校舎敷地	1,770,691.41 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²	1,772,744.29 m ²		内借用地：55,045.86m ²			
	運動場用地	396,797.97 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	396,797.97 m ²		内借用地：47,282.12m ²			
	小 計	2,167,489.38 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²	2,169,542.26 m ²					
	そ の 他	211,174.76 m ²	0.00 m ²	0.00 m ²	211,174.76 m ²		内借用地：153,717.23m ²			
	合 計	2,378,664.14 m ²	2,052.88 m ²	0.00 m ²	2,380,717.02 m ²		借用期間：2～30年			
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	0.00 m ² (0.00 m ²)	532,456.15 m ² (532,456.15 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	480 室	328 室	1260 室	79 室 (補助職員 20 人)	6 室 (補助職員 0 人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数	341.80m ² の研究室に専任教員21名分の研究ブースを設置					
	児童教育学部児童教育学科			1 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	【大学全体との共用分】 図書 120,291 [19,343] 学術雑誌 1,804 [924] 視聴覚資料 815 を含む。		
	児童教育学部 児童教育学科	123,499 [19,600] (122,616 [19,513])	2,080 [1,013] (2,023 [978])	797 [725] (767 [698])	822 (815)	0 [0] (0 [0])	0 [0] (0 [0])			
	計	123,499 [19,600] (122,616 [19,513])	2,080 [1,013] (2,023 [978])	797 [725] (767 [698])	822 (815)	0 [0] (0 [0])	0 [0] (0 [0])			
図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体				
	21,687.00 m ²	3,734 席		2,318,166 冊						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
	24,060.79 m ²	トレーニングセンター		25mプール						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		330千円	330千円	330千円	330千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		1,470千円	1,470千円	1,470千円	1,470千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	10,390千円	200千円	200千円	200千円	200千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	207,418千円	19,020千円	5,988千円	5,988千円	5,988千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,469千円	1,269千円	1,269千円	1,269千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、手数料等							

既設大学の状況	大学の名称	東海大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	備考
		年	人	年次人	人		倍			
大	文学部		370	—	1,480		1.02	昭和25年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文学部 文明学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.03	平成13年	〃	
	文学部 アジア文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部ヨーロッパ文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 アフリカ文明学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 北欧学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和42年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 歴史学科		130	—	520		1.02	昭和35年	〃	
	文学部 日本史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	1.07	昭和58年	〃	
	文学部 東洋史専攻	4	—	—	—	学士(文学)	—	昭和58年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 西洋史専攻	4	50	—	200	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	文学部 考古学専攻	4	30	—	120	学士(文学)	0.99	昭和58年	〃	
	文学部 日本文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.01	平成13年	〃	
	文学部 文芸創作学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 英語文化コミュニケーション学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.00	昭和35年	〃	
	文学部 広報メディア学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
	文学部 心理・社会学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	平成13年	〃	平成30年度より学生募集停止
学	文化社会学部		450	—	1,800		1.01	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	文化社会学部 アジア学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	1.03	平成30年	〃	
	文化社会学部ヨーロッパ・アフリカ学科	4	70	—	280	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
	文化社会学部 北欧学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.02	平成30年	〃	
	文化社会学部 文芸創作学科	4	60	—	240	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
	文化社会学部 広報メディア学科	4	100	—	400	学士(文化社会学)	1.01	平成30年	〃	
	文化社会学部 心理・社会学科	4	90	—	360	学士(文化社会学)	0.99	平成30年	〃	
等	政治経済学部		480	—	1,920		1.00	昭和41年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	政治経済学部 政治学科	4	160	—	640	学士(政治学)	1.03	昭和41年	〃	
	政治経済学部 経済学科	4	160	—	640	学士(経済学)	0.99	昭和41年	〃	
政治経済学部 経営学科	4	160	—	640	学士(経営学)	0.99	昭和49年	〃		
の	法学部		300	—	1,200		1.01	昭和61年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	法学部 法律学科	4	300	—	1,200	学士(法学)	1.01	昭和61年	〃	
	教養学部		330	—	1,320		1.03	昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	教養学部 人間環境学科		160	—	640		1.01	昭和43年	〃	
	教養学部 自然環境課程	4	65	—	260	学士(教養学)	0.97	昭和43年	〃	
	教養学部 社会環境課程	4	95	—	380	学士(教養学)	1.01	昭和43年	〃	
	教養学部 芸術学科		90	—	360		1.03	昭和43年	〃	
	教養学部 音楽学課程	4	32	—	128	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
	教養学部 美術学課程	4	20	—	80	学士(教養学)	1.08	昭和43年	〃	
	教養学部 デザイン学課程	4	38	—	152	学士(教養学)	1.04	昭和43年	〃	
教養学部 国際学科	4	80	—	320	学士(教養学)	1.09	昭和47年	〃		
状	体育学部		480	—	1,920		1.01	昭和42年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	体育学部 体育学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.97	昭和42年	〃	
	体育学部 競技スポーツ学科	4	140	—	560	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
	体育学部 武道学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.02	昭和43年	〃	
	体育学部 生涯スポーツ学科	4	110	—	440	学士(体育学)	0.99	昭和46年	〃	
	体育学部 スポーツレジャーマネジメント学科	4	60	—	240	学士(体育学)	1.03	平成16年	〃	
況	健康学部		200	—	800		1.02	平成30年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	健康学部 健康マネジメント学科	4	200	—	800	学士(健康マネジメント学)	1.02	平成30年	〃	
況	理学部		320	—	1,280		0.98	昭和39年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	理学部 数学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和39年	〃	
	理学部 情報数理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.99	昭和49年	〃	
	理学部 物理学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
	理学部 化学科	4	80	—	320	学士(理学)	0.98	昭和39年	〃	
況	情報理工学部		200	—	800		1.03	平成13年	神奈川県平塚市北金目4-1-1	
	情報理工学部 情報科学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.04	平成13年	〃	
	情報理工学部 コンピュータ応用工学科	4	100	—	400	学士(工学)	1.03	平成13年	〃	

既	《大学院》											
	総合理工学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等			
	総合理工学専攻 博士課程	3	35	—	105	博士(理学)・博士(工学)	0.47	平成17年	〃			
設	地球環境科学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等	令和3年度より学生募集停止 令和3年度より学生募集停止		
	地球環境科学専攻 博士課程	3	—	—	—	博士(理学)・博士(工学)	—	平成17年	〃			
大	生物科学研究科							平成17年	神奈川県平塚市北金目4-1-1 等			
	生物科学専攻 博士課程	3	10	—	30	博士(理学)・博士(農学) 博士(保健学)	0.10	平成17年	〃			
学	文学研究科							昭和44年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
	文明研究専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.31	昭和49年	〃			
	文明研究専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.41	昭和51年	〃			
	史学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.06	昭和44年	〃			
	史学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃			
	日本文学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.81	昭和49年	〃			
	日本文学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.50	昭和51年	〃			
	英文学専攻 博士課程前期	2	4	—	8	修士(文学)	0.12	昭和44年	〃			
	英文学専攻 博士課程後期	3	2	—	6	博士(文学)	0.00	昭和46年	〃			
	コミュニケーション学専攻 博士課程前期	2	8	—	16	修士(文学)	0.43	昭和49年	〃			
	コミュニケーション学専攻 博士課程後期	3	4	—	12	博士(文学)	0.00	昭和51年	〃			
	観光学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(観光学)	0.43	平成26年	〃			
	政治学研究科								昭和46年	神奈川県平塚市北金目4-1-1		
政治学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(政治学)	0.05	昭和46年	〃				
政治学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(政治学)	0.00	昭和48年	〃				
経済学研究科								昭和54年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
応用経済学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(経済学)	0.10	昭和54年	〃				
応用経済学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(経済学)	0.00	昭和56年	〃				
法学研究科								平成2年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
法律学専攻 博士課程前期	2	10	—	20	修士(法学)	0.00	平成16年	〃				
法律学専攻 博士課程後期	3	5	—	15	博士(法学)	0.00	平成5年	〃				
人間環境学研究科								平成19年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
人間環境学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士(学術)	0.45	平成19年	〃				
芸術学研究科								昭和48年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
音響芸術専攻 修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	〃				
造型芸術専攻 修士課程	2	4	—	8	修士(芸術学)	0.37	昭和48年	〃				
体育学研究科								昭和51年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
体育学専攻 博士課程前期	2	20	—	35	修士(体育学)	1.36	昭和51年	〃				
体育学専攻 博士課程後期	3	3	—	3	博士(体育学)	—	令和3年	〃				
理学研究科								昭和43年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
数理学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.56	昭和43年	〃				
物理学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	1.37	昭和43年	〃				
化学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士(理学)	0.49	昭和43年	〃				
工学研究科								昭和38年	神奈川県平塚市北金目4-1-1			
電気電子工学専攻 修士課程	2	50	—	100	修士(工学)	1.03	平成28年	〃				
応用理化学専攻 修士課程	2	45	—	90	修士(工学)	1.24	平成28年	〃				
建築土木工学専攻 修士課程	2	25	—	50	修士(工学)	1.16	平成28年	〃				
機械工学専攻 修士課程	2	75	—	150	修士(工学)	1.21	平成28年	〃				
医用生体工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士(工学)	0.37	平成26年	神奈川県伊勢原市下糟屋143				
情報通信学研究科								平成24年	東京都港区高輪2-3-23			
情報通信学専攻 修士課程	2	30	—	60	修士(情報通信学)	0.99	平成24年	〃				
海洋学研究科								昭和42年	静岡県静岡市清水区折戸3-20-1			
海洋学専攻 修士課程	2	20	—	40	修士(海洋学)	0.65	平成27年	〃				

既 設 大 学 等 の 状 況	医学研究科								昭和55年	神奈川県伊勢原市下糟屋143		
	医科学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(医科学)	0.80	平成7年	〃		
	先端医科学専攻	博士課程	4	35	—	140	博士(医学)	0.49	平成17年	〃		
	健康科学研究科									平成11年	神奈川県伊勢原市下糟屋143	
	看護学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(看護学)	0.85	平成11年	〃		
	保健福祉学専攻	修士課程	2	10	—	20	修士(保健福祉学)	0.15	平成11年	〃		
	農学研究科									平成20年	熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽	
	農学専攻	修士課程	2	12	—	24	修士(農学)	0.87	平成20年	〃		
	生物学研究科									令和2年	北海道札幌市南区南沢5条1-1-1	
	生物学専攻	修士課程	2	8	—	16	修士(理学)	0.25	令和2年	〃		
大学の名称		東海大学短期大学部										
学部等の名称		修業 年限	入 学 員 定 員	編入学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地			
		年	人	年 次 人	人		倍					
食物栄養学科		2	—	—	—	短期大学士(食物栄養学)	—	昭和41年	静岡県静岡市葵区宮前町101		令和2年度より学生募集停止	
児童教育学科		2	—	—	—	短期大学士(児童教育学)	—	昭和44年	〃		令和2年度より学生募集停止	
大学の名称		東海大学医療技術短期大学										
学部等の名称		修業 年限	入 学 員 定 員	編入学 員 定 員	収 容 員 定 員	学位又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地			
		年	人	年 次 人	人		倍					
看護学科		3	—	—	—	短期大学士(看護学)	—	昭和49年	神奈川県平塚市北金目4-1-2		令和2年度より学生募集停止	

附属施設の概要	<p>名称：東海大学医学部付属病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県伊勢原市下糟屋143 設置年月：昭和50年2月 規模等：土地 116,282.91㎡、建物 83,850.19㎡</p>
	<p>名称：東海大学医学部付属東京病院 目的：医療機関 所在地：東京都渋谷区代々木1-2-5 設置年月：昭和58年12月 規模等：土地 2,498.45㎡、建物 7,550.91㎡</p>
	<p>名称：東海大学医学部付属大磯病院 目的：医療機関 所在地：神奈川県中郡大磯町月京21-1 設置年月：昭和59年4月 規模等：土地 23,286.72㎡、建物 19,752.88㎡</p>
	<p>名称：東海大学医学部付属八王子病院 目的：医療機関 所在地：東京都八王子市石川町1838 設置年月：平成14年3月 規模等：土地 47,708.39㎡、建物 44,334.88㎡</p>
	<p>名称：望星丸 目的：海洋調査研修 所在地：東京都（船籍港） 設置年月：平成5年3月（進水の年月） 規模等：総トン数1,777トン、国際総トン数2,174トン 全長全長87.98m、型幅12.80m、型深さ8.10m</p>

【別紙】同一設置者内における変更状況

政治経済学部経営学科（廃止）（△160）	※令和4年4月学生募集停止
教養学部国際学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部生命化学科（廃止）（△100）	※令和4年4月学生募集停止
工学部光・画像工学科（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
工学部原子力工学科（廃止）（△40）	※令和4年4月学生募集停止
工学部材料科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部建築学科（廃止）（△200）	※令和4年4月学生募集停止
工学部土木工学科（廃止）（△120）	※令和4年4月学生募集停止
工学部精密工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
工学部動力機械工学科（廃止）（△150）	※令和4年4月学生募集停止
工学部医用生体工学科（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部情報メディア学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部組込みソフトウェア工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部経営システム工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
情報通信学部通信ネットワーク工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋文明学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部環境社会学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部海洋地球科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科航海学専攻（廃止）（△20）	※令和4年4月学生募集停止
海洋学部航海工学科海洋機械工学専攻（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
経営学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
経営学科（廃止）（△150）	※令和4年4月学生募集停止
観光ビジネス学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
基盤工学部（廃止）	※令和4年4月学生募集停止
電気電子情報工学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
医療福祉工学科（廃止）（△60）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用植物科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部応用動物科学科（廃止）（△80）	※令和4年4月学生募集停止
農学部バイオサイエンス学科（廃止）（△70）	※令和4年4月学生募集停止
国際文化学部デザイン文化学科（廃止）（△70）	※令和4年4月学生募集停止
経営学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（230）	
国際学部（令和3年4月届出予定）	
国際学科（200）	
情報理工学部情報メディア学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部生物工学科（100）（令和3年4月届出予定）	
工学部機械システム工学科（140）（令和3年4月届出予定）	
工学部医工学科（80）（令和3年4月届出予定）	
建築都市学部（令和3年4月届出予定）	
建築学科（240）	
土木工学科（100）	
情報通信学部情報通信学科（240）（令和3年4月届出予定）	
人文学部（令和3年4月届出予定）	
人文学科（180）	
海洋学部海洋理工学科海洋理工学専攻（130）（令和3年4月届出予定）	
海洋学部海洋理工学科航海学専攻（20）（令和3年4月届出予定）	
文理融合学部（令和3年4月届出予定）	
経営学科（130）	
地域社会学科（100）	
人間情報工学科（70）	
農学部農学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部動物科学科（80）（令和3年4月届出予定）	
農学部食生命科学科（70）（令和3年4月届出予定）	
政治経済学部	
政治学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
経済学科〔定員増〕（40）（令和4年4月）	
教養学部	
人間環境学科〔定員減〕（△40）（令和4年4月）	
芸術学科〔定員減〕（△20）（令和4年4月）	
体育学部	
体育学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
競技スポーツ学科〔定員増〕（30）（令和4年4月）	
生涯スポーツ学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
スポーツ・レジャーマネジメント学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
工学部	
応用化学科〔定員増〕（20）（令和4年4月）	
電気電子工学科〔定員減〕（△20）（令和4年4月）	
海洋学部	
海洋生物学科〔定員減〕（△10）（令和4年4月）	
医学部	
看護学科〔定員増〕（10）（令和4年4月）	
生物学部	
生物学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	
海洋生物科学科〔定員増〕（5）（令和4年4月）	

教育課程等の概要																
(児童教育学部 児童教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
I 現代文	現代文明論	2前	2			○									兼1	
	小計（1科目）	—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼1	
II 現代教養科目	基礎教養科目	入門ゼミナールA	1前	2				○		3	2	1				
		入門ゼミナールB	1後	2				○		3	2	1				
		小計（2科目）	—	4	0	0	—			3	2	1	0	0		
	発展教養科目	シティズンシップ（現代社会と市民）	1前	1			○									兼1
		シティズンシップ（社会参画の意義）	1前	1			○									兼1
		地域理解	1後	1			○									兼1
		国際理解	1後	1			○									兼1
		現代教養講義	2後	2			○									兼1
	小計（5科目）	—	6	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	
	健康科目スポーツ	健康・フィットネス理論実習	1前	1					○							兼2
生涯スポーツ理論実習		1後	1					○							兼2	
小計（2科目）		—	2	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	
III 英語科目	英語リスニング&スピーキング	1後	2					○							兼2	
	英語リーディング&ライティング	1前	2					○							兼2	
	小計（2科目）	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	0	兼2	

教育課程等の概要															
(児童教育学部 児童教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目 専門基礎科目	日本国憲法	1前		2		○									兼1
	情報機器操作	1前		2			○								兼1
	教育原理（幼・小）	1前	2			○			1						
	教職論（幼・小）	1前	2			○				1					
	保育原理	1前	2			○			1						
	社会福祉	1前		2		○			1						
	保育者論	1前	2			○				1					
	教育心理学（幼・小）	1後	2			○			1						
	教育課程論（幼・小）	1後	2			○			1						
	幼児理解	1後		1		○					1				
	子ども家庭福祉	1後	2			○			1						
	幼児教育原理	1後		2		○			1						
	情報機器活用の理論と方法	1休		1			○								兼1 集中
	教育制度論（幼・小）	2前	2			○				1					
	特別支援教育（幼・小）	2前	2			○			1						
	教育方法論（小）	2前	2			○									
	保育の心理学	2前	2			○				1					
	教育方法論（幼）	2後	1			○				1					
	社会的養護	2後		2		○			1						
	教育相談（幼・小）	3後	2			○			1						
小計（20科目）			25	12	0				6	3	1	0	0	兼3	

教育課程等の概要															
(児童教育学部 児童教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目 専門応用・実践科目	人間関係の指導法	2前		2			○					1			
	環境の指導法	2前		2			○					1			
	乳児保育演習	2前		1			○						1		
	子育て支援	2前		1			○						1		
	初等音楽科教育法	2後		2			○			1					
	初等図画工作科教育法	2後		2			○					1			
	健康の指導法	2後		2			○					1			
	言葉の指導法	2後		2			○			1					
	保育の計画と評価	2後		2			○								兼1
	初等算数科教育法	3前		2			○			1					
	初等生活科教育法	3前		2			○				1				
	特別活動の指導法（小）	3前		1			○			1					
	表現（造形）の指導法	3前		2			○					1			
	表現（音楽）の指導法	3前		2			○				1				
	社会的養護演習	3前		1			○								兼1
	初等国語科教育法	3後		2			○			1					
	初等社会科教育法	3後		2			○			1					
	初等理科教育法	3後		2			○					1			
	初等家庭科教育法	3後		2			○								兼1
	初等体育科教育法	3後		2			○								兼1
	初等英語科教育法	3後		2			○				1				
	道徳の指導法（小）	3後		2			○								兼1
	総合的な学習の時間の指導法（小）	3後		2			○			1					
	生徒指導論（小）	4前		1			○			1					
	進路指導論（小）	4前		1			○			1					
小計（25科目）		-	0	44	0		—		5	3	5	1	0	兼5	

教育課程等の概要															
(児童教育学部 児童教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
IV 主専攻科目	4 教科・保育研究に関する科目群	保育内容研究A	3後	2			○		1						兼1 オムニバス
		初等国語研究	4前	1			○		1						
		初等社会研究	4前	1			○		1						
		初等算数研究	4前	1			○		1						
		初等理科研究	4前	1			○				1				
		初等生活研究	4前	1			○			1					
		初等音楽研究	4前	1			○			1					
		初等図画工作研究	4前	1			○					1			
		初等家庭研究	4前	1			○								兼1
		初等体育研究	4前	1			○					1			
		初等英語研究	4前	1			○				1				
		保育内容研究B	4前	2			○					2			
	小計（12科目）	-	0	14	0		-		4	3	4	0	0	兼2	
	5 教育・保育フィールド科目群	音楽実習A	1前	1				○							兼1
		音楽実習B	1後	1				○							兼1
		学校体験活動	2前	2				○		3		2			
		地域連携ボランティア	2前	1				○				1			兼2
		保育実習指導1（保育園）	2後	2				○			2		1		オムニバス・共同（一部）
		保育実習1（保育園）	2後	2				○			2		1		
		保育実習指導1（施設）	3前	2				○		2	1				オムニバス・共同（一部）
保育実習1（施設）		3前	2				○		2	1					
教育実習指導（幼稚園）		3後	2				○		1		2			オムニバス・共同（一部）	
教育実習（幼稚園）		3後	3				○		1		2				
教育実習指導（小学校）		4前	2				○		2					オムニバス・共同（一部）	
教育実習（小学校）		4前	3				○		3						
保育実習指導2	4前	2				○			2		1		オムニバス・共同（一部）		
保育実習2	4前	2				○			2		1				
教職・保育実践演習（幼・小・保）	4後	2				○		4	4					オムニバス・共同（一部）	
小計（15科目）	-	0	29	0		-		7	5	4	1	0	兼3		

教育課程等の概要																
(児童教育学部 児童教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
IV 主専攻科目 専門発展科目	子育て支援実習A	3前		1				○					1		兼1 集中 集中 オムニバス・共同（一部）	
	国際理解教育	3前		2				○								
	海外教育体験A	3休		1					○		1	1				
	子育て支援実習B	3後		1					○				1			
	海外教育体験B	3休		1					○		1	1				
	接続期カリキュラム研究A	4前		2					○		1					
	特別支援教育指導論	4前		2				○			1					
	教育・保育インターンシップA	4前		1						○	1	1				
	接続期カリキュラム研究B	4後		2						○		1				
	アダプテッド・スポーツ	4後		2								1				
	障がい児保育指導論	4後		2					○		1					
	保育の歴史	4後		2					○		1					
	野外体験保育	4後		2						○			1			
	子どもと文学	4後		2					○		2					
	教育・保育インターンシップB	4後		1							1	1				
	小計（15科目）	-	-	0	24	0	-	-	-	-	5	2	2	1	0	兼1
	7 卒業研究科目群	発展ゼミナール1	3前		2					○		9	6	5		
		発展ゼミナール2	3後		2					○		9	6	5		
		卒業研究1	4前		2					○		9	6	5		
		卒業研究2	4後		2					○		9	6	5		
小計（4科目）		-	-	8	0	0	-	-	-	9	6	5	0	0		
合計（128科目）		-	-	72	133	0	-	-	-	9	6	5	1	0	兼23	

教育課程等の概要													
(児童教育学部 児童教育学科)													
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	
	学士（児童教育学）		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等							
以下の合計で124単位以上修得する。 （履修科目の登録の上限：24単位（1学期）） <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅰ現代文明論（必修科目） 2単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅱ現代教養科目（必修科目） 12単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅲ英語科目（必修科目） 4単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳ主専攻科目（必修科目） 54単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳ主専攻科目（選択必修科目） 22単位修得 <input type="checkbox"/> 科目区分Ⅳ主専攻科目（選択科目）・他学部他学科科目 30単位修得 合計124単位修得 <必修科目> ■設定された必修科目を修得する。（計54単位） <選択必修科目> ■科目区分Ⅳ主専攻科目 「専門応用・実践科目」の「3教科・保育内容の指導法に関する科目群」のうち、「初等音楽科教育法」「初等図画工作科教育法」「初等算数科教育法」「初等生活科教育法」「特別活動の指導法（小）」「初等国語科教育法」「初等社会科教育法」「初等理科教育法」「初等家庭科教育法」「初等体育科教育法」「初等英語科教育法」「道徳の指導法（小）」「総合的な学習の時間の指導法（小）」「生徒指導論（小）」「進路指導論（小）」から16単位を修得する。 ■科目区分Ⅳ主専攻科目 「専門基礎科目」の「2教科・保育内容に関する科目群」のうち、「子ども家庭支援の心理学」「専門応用・実践科目」の「3教科・保育内容の指導法に関する科目群」のうち、「人間関係の指導法」「環境の指導法」「健康の指導法」「言葉の指導法」「表現（造形）の指導法」「表現（音楽）の指導法」以上から6単位を修得する。（計22単位） <選択科目> ■設定された選択科目、選択必修科目の余剰科目（計30単位）						1学年の学期区分		2学期					
						1学期の授業期間		14週					
						1時限の授業時間		100分					

授 業 科 目 の 概 要				
(児童教育学部児童教育学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
I 現代 文明 論	現代文明論	本授業は東海大学に学ぶすべての学生が、建学の精神を理解し自らの思想を培うために開講される。すなわち歴史や世界への見識を高め、人類社会のあり方を見直すことを通じて、地球規模で深刻化する困難な事態にあっても、時代を開拓しようとする力強い思考や意欲を養うことを目的としている。理系、文系の枠を超えて、現代の課題の根源を探るために不可欠な歴史的・系譜的な認識を深め、それを多様な角度から読み解く思考法を身につけるとともに、人間的価値に基づいた倫理観によって未来を選択しうることを学ぶ。		
II 現代 教育 科目	基礎 教養 科目	入門ゼミナールA	本授業では、初年次教育として、大学で学ぶこと、及び児童教育学科で学ぶことの意義を理解し、大学四年間での学びに必要となるアカデミック・スキルを習得することを目標とする。加えて、教育・保育を学ぶにあたって必要とされる基礎的能力を身に付ける。教育・保育を学ぶことと社会とのかかわりについて理解を深め、それらを踏まえて、今後の教育・保育現場における実践活動の内容を構想しながら自己課題を設定し、そのための準備を行う。	
		入門ゼミナールB	本授業では、1年次前期の「入門ゼミナールA」について振り返り、自らの教育・保育実践について自己評価を行う。それを踏まえ、社会における教育・保育や教員・保育者の役割について、自らがより深めたい内容・方向性を定め、2年次以降の多様な実践フィールドに向けた、これからの大学での学びの自己課題と、その課題解決に向けた手立てを考える。また、模擬保育を構想・実践し、自らの教育・保育構想力と実践力を確認するとともに、2年次以降の実践活動までに身に付けるべき自らの資質能力について考える。	
発展 教養 科目		シティズンシップ (現代社会と市民)	現代社会においては、思想信条、宗教、人種、民族、文化、性別、国籍等の異なる様々な人々が相互に関わりながら暮らしている。本授業では、シティズンシップ (citizenship、市民性) という観点から、多様な人々が民主政治の担い手である市民として意見の相違を乗り越え、相互の人権を尊重しあえる社会を形成していくにはどうすればよいのかについて共に考えることを目標とする。	
		シティズンシップ (社会参画の意義)	私たちが行動を通してシティズンシップを実践するためには、社会に参画するための具体的な方法を知る必要がある。また、参画には社会をより良いものにするための計画段階から関わるが含まれるため、社会の課題について知り、他者と話し合い、意見を発信することも社会への参画過程といえる。本授業では、投票、署名、パブリックコメントや市民委員など制度化された社会参画や、ボランティアや市民活動・社会運動など社会に参画し変革するために生み出された民主的方法について具体例から学び、市民の役割として社会に参画する必要性と政治的主体としての自らの可能性について理解することを目的とする。	
		地域理解	私たちは日々、ある地域で、様々なひと、もの、ことに支えられながら生活している。豊かな生活を営むためには、その基盤である地域を豊かに持続させていくことが必要である。地域で仲間をつくり、議論し、協同し、持続可能な地域を実現していくことが求められる。この授業では、自らが暮らす地域社会を見つめ、多様な人々の目線に立って、地域の課題を発見し、その解決について考え、地域づくりにおける自らの役割を認識することを目標としている。	
		国際理解	地球上には70億人を超える人々が、様々な言語・文化・社会のもとに生活している。近年の情報技術や交通輸送技術などの発展は、遠く離れた地域と人々が緊密に触れ合う時代をもたらした。様々な背景と価値観を持つ人々が混在する「グローバル社会」において平和で公正な世界を構築していくために、私たちはどのように考え、行動していけばよいのだろうか。この授業では、今まで当然と思っていた自分の思考の枠を取り払い、国際社会の現実を客観的に理解するとともに、グローバル社会における自分自身のアイデンティティを認識し、多様な他者とともに生きる力を得ることを目指す。	
		現代教養講義	現代教養とは、人々が現在の複雑化した文明社会を生きるために必要な知識である。今日の私たちは、情報技術の発展や経済活動のグローバル化など、急激な社会的変化にさらされている。その一方で、気候変動や健康リスクなど、さまざまな問題の解決を迫られている。こうした現代社会の中でより良く生きていくためには、高度に専門化した現代の科学的知識について、その枝葉にとらわれず本質をつかみつつ文理融合的な幅広い視野を持つことが重要である。それによって、変化の激しい現代社会の構造を知り、自分をそこに位置づけ、これから進むべき方向を選択することができる。現代教養講義は、教員自身が現在取り組んでいる研究についていきいきと語りながら、幅広い視野を育む講義科目である。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
II 現代教育科目	健康スポーツ科目	健康・フィットネス理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、健康的な生活習慣を身につけることに重点を置き、健康に関する理論や重要性を理解するとともに、自己の体力に応じたフィットネスの実践能力を習得する。	
		生涯スポーツ理論実習	本授業では、生涯を通じて活力あるライフスタイルを形成するための理論と実践方法を講義と実習を通して学習する。また、健康・体力面だけでなく、仲間とともに身体活動を通しての「友達づくり」や「仲間との信頼関係づくり」を体験し、コミュニケーション能力の向上をねらいとする。具体的には、生涯を通じたスポーツライフスタイルの獲得に重点を置き、スポーツの「おもしろさ」や「大切さ」などを学び、ライフステージに応じたスポーツの楽しみ方と実践能力を習得する。	
III 英語科目	英語コミュニケーション科目	英語リスニング&スピーキング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリスニング力と、自分の意志を適切に表現するためのスピーキング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
		英語リーディング&ライティング	国際化時代の今日、日本国内外を問わず言語や価値観そして文化の異なる人々と英語を使って意思疎通をはかることの重要性がさらに高まっている。その中での課題に柔軟に対応し、問題を解決するための実践的英語コミュニケーション能力の基盤を作ることを目標とする。学習者の英語力に合わせて効率よく学習できる習熟度別クラス編成で、多様な種類の英語を理解するリーディング力と、自分の意志を適切に表現するためのライティング力を相互に関連させながら、総合的に英語力の向上を図る。	
IV 専攻科目	1 専攻基礎科目群	日本国憲法	法治国家である我が国にとって、日本国憲法は国の基本的なあり方を定めるきわめて重要な法律である。憲法は国の組織に形と権限を与える（統治機構）とともに、権力による個人の権利の侵害を防止し（人権保障）、すべての人にとって住みよい社会を実現することを究極の目標としている。このことをふまえ、本授業では、日本国憲法の基本的構造や特徴および考え方を明らかにすることを目標とする。	
		情報機器操作	情報社会におけるICT（情報通信技術）の正しい知識を習得し、コンピュータでの実習を通じて基本的なICT活用能力を養う。知識としてコンピュータとネットワークの基礎的な概念を解説し、実際にコンピュータを利用しながら情報処理の基礎を学ぶ。実習としては、パーソナルコンピュータの基本操作、文書処理（ワードプロセッサ）、データ活用（表計算）、プレゼンテーションなど基本的なソフトウェアの利用方法を習得して、今後の授業や研究・社会活動での活用を目指す。	
		教育原理（幼・小）	本授業では、教育者としての専門性の基礎となる教育の理念や現代的課題について学習する。授業は、「教育とは何か（理念）」「教育にはどのような考え方があるか（思想）」「教育はどのように組織されてきたか（学校教育）」の3つの柱で構成される。これらの学習を通じて、社会において教育が果たす役割を理解し、学校教育を取り巻く現代的課題に対する視点を得ることを目指す。また、各回のワークに取り組むことで、自身の教育経験を相対化する機会とする。	
		教職論（幼・小）	本授業では、公教育の目的とその担い手である教職の意義や、教職観の変遷から見た今日の教員に求められる役割と資質能力、また教育活動とそれ以外の校務など教員の職務内容、教員としての義務、研修と学び続ける必要性など、教職の全体像について学ぶ。さらには多様化する学校（園）の役割と「チーム学校」への対応等について学ぶ。これらの学習を通して、教職の在り方を認識すると同時に、社会における教職の重要性を多面的に理解し、教職を目指す意欲を高める。	
		保育原理	本授業では、その時代・社会によって変化しながらも、現在まで必要とされ継続している概念であり仕事である「保育」について、その歴史的な視点を含みながら、現在の社会において保育がどのように捉えられ、位置づけられているのかを学ぶとともに、保育者という専門職が担う就学前の子どもに対する保育の基本的内容に関する専門的な基礎知識を身に付け、グループワークをとおしてその学びを深める。また、それらを踏まえて、保育の視点から見た現代的課題について自らの考えを持てるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	専 門 基 礎 科 目 群	1 教 職 ・ 保 育 基 礎 科 目 群		
		社会福祉	本授業では、現代社会における社会福祉の理念・概念と歴史的変遷について概観し、社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。また、社会福祉の法体系や制度、行財政、実施体系、専門職と相談援助の理論、方法・技術から社会福祉を構造的に理解するとともに、社会福祉対象者の権利擁護や苦情解決にかかわる仕組みを理解する。さらに、少子高齢社会における子育て支援施策、障害児者施策、在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の動向と課題について理解する。	
		保育者論	本授業では、乳幼児期の教育の重要性が指摘されている現在において重要な役割を担う保育者（保育士及び幼稚園教諭）という存在の意義や、その社会的な役割、また保育専門職である保育士や幼稚園教諭としての職業倫理について理解を深めることを目指す。また保育者にとっての「専門性」とは何かということについて、保育の展開と合わせながら具体的に考えられるようにするとともに、専門性の向上のための方策や保育者としてのキャリア形成について理解を深める。	
		教育心理学（幼・小）	本授業では、教育心理学の5つの柱である「①乳児、児童、生徒を中心とした発達の理論と発達の過程」「②学習とは何か、学習のメカニズムと学習方法」「③人格の発達と理論」「④測定と評価」「⑤教育における問題と臨床」について学び、幼児・児童の発達、学習の過程、子どもの特性を踏まえた指導、指導の効果測定と評価、幼児児童の教育にかかわる問題の理解と支援の基礎を身に付ける。これらを通して、教育の場やそこで起こる教育という現象やその影響を心理学的に解明し、教育という営みを理解し、児童生徒のよりよい成長や発達、教育の改善に役立てることを目指すものである。	
		教育課程論（幼・小）	本授業では、カリキュラムの概念を顕在的・潜在的学習の両面から理解させ、カリキュラム・マネジメントの基礎を習得させることを目指す。そのために広く社会変化と小学校学習指導要領および幼稚園教育要領の変遷を振り返り、平成29年告示の改訂点と教育課程編成の方向を把握する。そして幼児期の教育、初等教育のカリキュラム開発について、生涯学習の基礎を培う視点から、資質・能力と学力の三要素、「主体的・対話的で深い学び」、および多様な学習評価等の課題から単元計画を立案し、それをグループワークによって検討することを通じて、教師に必要な構想力の基礎を養う。	
		幼児理解	本授業では、乳幼児期の子どもについて、発達過程を踏まえながら、子どもの生活や内面に着目し、保育者の援助のあり方と併せて理解を深めることを目的とする。乳幼児期の子どもの発達過程、及び子どもの生活や内面について、子どもとのかかわりをおして捉える力を身に付けるために、保育現場の事例や、実際に子どもとかわる経験を題材として、保育者の専門性についても実践的に学ぶ。また、よりよい保育を目指し、記録や省察の意味についてもグループワークなどの体験をおして考えを深める。	
		子ども家庭福祉	本授業では、子ども家庭福祉の歴史的変遷から現代社会における子ども家庭福祉の理念と概念、子ども家庭福祉の法体系や制度、実施体系、児童福祉施設等について基盤となる子ども権利をふまえて理解する。また、子ども家庭福祉の具体的な実施について、地域子育て支援、母子保健・子どもの健全育成・保育、子ども虐待・DV防止、社会的養護、障害・難病のある子どもへの対応、少年非行等への対応、貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応にわけてその現状と課題、今後の展望について理解する。	
		幼児教育原理	本授業では、幼児教育の近年の制度改革動向を踏まえた上で、幼児期の発達理解と教育実践への視座を学ぶ。まず、「幼児期」の位置づけについて、「子どもの権利」の観点と発達科学などの研究動向を取り上げ、教育学的な視点からこの時期の発達理解を学ぶ。次に、学習論や教育メディア論など教育の方法について学び、教育実践に対する分析的視点を得る。最後に、保幼小連携の実態と課題を、実践記録分析をおして比較検討するグループディスカッションを行う。	
情報機器活用の理論と実践	本授業は、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や保育、校務の推進の在り方及び幼児、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付けることを目標とする。そこで、情報通信技術の活用の意義と理論を保育内容における5領域や各教科、特別支援教育との関係等から理解する。また、外部人材との連携や学習のログデータの活用等を通して、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。さらに、幼児、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。	集中		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主専攻科目	1 教職・保育基礎科目群	教育制度論（幼・小）	本授業では、学校教育に関する社会的、制度的事項について学ぶ。公教育を支える教育制度・教育行政・関連法規、子どもと学校をめぐる近年の状況変化とそれに対応する教育改革・教育政策に関する基礎的な知識を身に付けるとともに、学校（園）と地域との連携の意義及び連携協働の在り方に関する理解や、学校における安全管理や安全教育に関する理解を深める。また、国際比較の観点から、中国の教育制度と教育改革についても学ぶ。これらを通して、教育制度を多角的に理解する。	
		特別支援教育（幼・小）	本授業では、通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童が、授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児・児童の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目的とする。	
		教育方法論（小）	本授業では、将来の生涯学習社会を展望して「主体的・対話的で深い学び」の機会を提供することの両方を自らの授業において実現するために必要な知識と技術を獲得することを目的とする。具体的には、教授-学習過程のさまざまな事例を検討することを通じて、「①授業改善の構想とその根拠となる学習論」「②ICT機器を含む学習環境、教師と児童の関係、教材研究や学習指導の方法論に関する基礎的な理解を、教育実習等で生かせる形で身に付ける」「③理論や技術、ICT活用及び学習評価の方法を生かして学習指導案を立案し、それを受講生相互のグループワークによって検討することを通じて授業を実践する力を身に付ける」の3点を達成することを目指す。	
		保育の心理学	本授業では、実践の場において、子どもの育ち、学び、かかわりを理解するために、幼児期に身に付けるべきものとしての「自己肯定感・対人志向性・共感性・道徳性・対人関係能力・レジリエンス」等をはじめとした各概念についての理論的知識を身に付ける。具体的には、各時期の発達特徴とその背景を把握するとともに、養護及び教育の一体性、保育における人との相互的かかわりや体験、環境の意義、内発的動機を高める方法について理解を深める。	
		教育方法論（幼）	本授業では、子どもの多様な発達や学びの姿を捉えながら、それを支える保育の方法について理解し、保育を実践するための知識や技術を身に付けることを目的とする。そのために、環境構成や保育者の援助等、保育を実践するための方法について理解を深めると同時に、日々の保育を展開するために必要な記録・計画・実践・評価に関する基礎的な技術を身に付ける。また、情報機器を活用した教材等、保育教材の作成やその活用方法について理解を深める。それをおして、保育者として必要となる、子ども理解に基づいて保育を構想し、実践する力の基盤を身に付ける。	
		社会的養護	本授業では、「子ども家庭福祉」の学びをもとに現代社会における社会的養護の理念や概念について、歴史的変遷の理解をおして概観するとともに、子どもの人権擁護をふまえた社会的養護の基本について理解する。また、社会的養護の制度や実施体系、社会的養護の対象となる要支援・要保護児童とその家庭、施設養護や家庭養護など養育の形態、施設保育士の専門性と関係する専門職等について学び、社会的養護の全体像を理解する。これらを踏まえて、社会的養護に関する社会的状況、施設等の運営管理、被措置児童等の虐待防止、社会的養護と地域福祉など、転換期にある社会的養護の現状と課題について理解する。	
		教育相談（幼・小）	本授業では、幼児・児童に教育を実践する中で、幼児や児童が出会うさまざまな課題や困難を理解し、それらを支援する上で必要とされる教育相談の基本となる理論と方法及び関係者との連携・協働の基礎、態度を身に付けることを目的とする。そしてまた、幼児・児童の発達上の問題にかかわる事例理解を通し、一人ひとりの発達の様相を想い描き、支援をおして人にとっての幼児期・児童期の意味と教育相談の果たす役割を理解することを目指す。	
	2 教科・保育内容に関する科目群	保育内容総論	本授業では、保育現場における具体的なエピソードをもとにしながら、幼児期に育みたい資質・能力との関連から保育の基本について学ぶとともに、子どもの生活する姿をとらえる視点としての5つの「領域」とその領域同士の関連について学び、保育内容について理解を深める。また子どもの発達に即した保育の内容とその構造について知り、保育の多様性にも着目しながら、保育者の援助や環境構成等、具体的に保育の実践をイメージし構想する力を身に付けることを目的とする。	
		初等算数	本授業では、社会事象と密接な関係を持ちながら発達し、現在も日々の生活から最先端の科学に至るまで、各所で活用されている「算数」について、日常生活とのかかわりに着目し、算数教育の意味を考える。またそれを踏まえた上で、算数教育に必要な基礎的な知識を身に付けるとともに、児童の思考方法や特徴を知るとともに、算数教育において、どのような内容や方法を取り得るのか自ら考え、児童の学びに対する理解を深めることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主 専 攻 科 目	専 門 基 礎 科 目	2 教 科 ・ 保 育 内 容 に 関 連 す る 科 目 群	人間関係	本授業では、子どもの人とかかわる力の基盤となる専門的事項についての知識を身に付け、「①子どもの人とかかわりについて、発達の側面、環境的な側面、現代の時代的背景の側面等から学ぶ。」「②子どもの人とかかわりに関連する現場でのさまざまな実践エピソードや映像に触れ、さらに、自身の観察による記録やエピソードを記述し、それらを「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の「人間関係」の領域に沿って考察する。」「③子どもの人間関係を育むための保育者の役割について学ぶ。」の3つを柱として、グループワークをとおして、領域「人間関係」の理解を深める。	
			環境	本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を踏まえながら、領域「環境」における乳幼児期の環境とのかかわりや、それに伴う発達の諸側面の特質について理解を深める。身近な環境とのかかわりについては、乳幼児期の思考・科学的概念の発達、標識・文字等、情報・施設とのかかわりがどのように発達していくか実践的に学ぶ。保育現場で見られるさまざまな事例や、ワークを通じた体験を題材に、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育内容の指導法を、実践的に考える。	
			乳児保育	本授業では、保育所保育指針に示された、子どもの健やかな成長過程において、その育ちの基盤となる乳児期の保育について学ぶ。乳児保育の歴史の変遷やこの時期の子どもの保育の重要性と役割について理解する。さらに、乳児期の子どもの発達について学びその特性を踏まえた保育の内容やその援助、運営体制など、保育の基本およびその特徴について理解を深め、乳児保育実践のために必要な基礎的事項を身に付けることを目指す。 (オムニバス方式/全14回) (⑩ 及川留美・21 石井則子/2回) (共同) 第1回は保育における乳児保育に関する基本的事項について学ぶ。第14回は乳児保育の重要性について振り返り、今後の学習の課題について明らかにする。 (⑩ 及川留美/2回) 第2・3回は乳児保育の目的・役割、及びその歴史の変遷について解説する。 (21 石井則子/10回) 第4～13回は3歳未満児の保育実践のために必要な基礎的事項を身に付けることを目指し、乳児期の発達とその特性を踏まえた保育の内容やその援助、また運営体制などについて解説する。	オムニバス方式・共同 (一部)
			障がい児保育	本授業では、保育所や障がい児施設に通所する障がいのある子どもに対して個別のニーズに応じた保育ならびに支援を行うために、障がい児保育を支える理念や歴史の変遷、さまざまな障がいに対する理解や具体的な支援の方法・環境構成、障がいのある子どもの「個別の指導計画」及び「個別の支援計画」の作成方法、障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携、障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育の現状と課題等について具体的に理解することを目的とする。	
			初等音楽	本授業では、小学校音楽科の学習内容である「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」に関する、各学年(低学年・中学年・高学年)の授業実践について、その基盤となる音楽表現に対する分析的な思考力及び判断力、音楽表現力、教科内容や指導にかかわる音楽の専門的知識及び技能を中心に、授業場面を意識しながら理解を深めることを目的とする。そのために、基礎的・基本的な小学校音楽科の教材研究等に必要知識及び技能を身に付ける。	
			初等図画工作	本授業の目的は、学習指導要領に定められた図画工作科の領域「A 表現」に含まれる「(1)(2)ア 造形遊び」「(1)(2)イ 絵に表す活動」「(1)(2)イ 立体に表す活動」「(1)(2)イ 工作」および領域「B 鑑賞」に関する学びを通して、図工科教育の指導者に求められる基礎的な技術や感性を獲得することである。学生はこのような経験を通して、子どもが主体的・連続的に活動を発展させてゆく過程や、そのような創造的成長を支えるための視点を理解する。同時に、構成、イメージ産出、文章表現を手段とし、環境や自己・他者との相互作用を介して、感性を働かせ、意味や価値を生成する。	
			健康	本授業では、領域「健康」の指導の基盤となる知識、技能を身に付ける。具体的には、幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達等について、知識や情報、具体的な事例等を通して子どもの健康への理解を深める。また、他の領域との関連や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解し、保幼小接続の視点からも一人一人の子どもの健康へ着目し、正しく実態を理解・把握するための専門的知識を身に付ける。そして、これらの知識を基礎として保育の視点から見た子どもの発育・発達について自らの考えをもてるようになることを目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主 専 攻 科 目	専 門 基 礎 科 目	2 教 科 ・ 保 育 内 容 に 関 する 科 目 群	言葉	本授業では、人間にとっての言葉の意義・機能を理解するとともに、乳幼児期の言葉の発達過程について学び、グループワークをとおして、子どもにとって「生きる力の基礎」としての「言葉」の意義について理解を深める。また、そのような「言葉」を身に付けるための土台となる「言葉に対する感覚を豊かにする」保育実践、及び「言葉を育て想像する楽しさを広げる」児童文化財について学ぶとともに、グループワークをとおして、それらの実践活動の意義について理解を深め、その専門的知識を身に付けることを目指す。	
		表現（造形）	本授業では、人格形成の土台となる乳幼児期の造形表現が、生涯にわたって自然・文化・社会への好奇心・探究心をもち、自我を形成して他者とかかわり、主体的に生きる力の基礎を培うことを前提とする。そして、学生自身が身近な自然・素材との出会いや、五感や身体感覚に基づく表現を通して、環境との相互作用による学びや、自発的な活動としての遊びを経験することを重視する。「感性」という言葉に集約される力、すなわち、美を発見する力、一人ひとりの置かれている状況や表現のよさを見取る力、他者の意図や状況に柔軟に対応する力、発想や構想を生み出す力、創造的技術の育成を目指す。		
		表現（音楽）	本授業では、領域「表現」の目的である「感じたことや考えたことを自分なりに表現することをとおして、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを踏まえ、保育内容の領域を総合的に捉え、乳幼児の年齢に応じた保育内容の展開や指導法を音楽表現の観点から学ぶ。また、学生自身が演習をとおして自身の表現性に触れ、また他者の表現を自分なりに受けとる経験を積み、子どもが安心して自由に表すことのできる活動を構想、援助法について学び、実践する力を身に付けることを目指す。		
		初等国語	本授業では、「小学校での学びをとおして、子どもたちが「生きる力」、実社会で「生き抜く力」を身に付ける」という、小学校での学びの本質を踏まえ、教員・保育者を志す学生として、社会人として通用する日本語運用能力、及び、子どもの学びに向けた、日本語の仕組みを体系的・網羅的に理解することを目的とする。また、そのような基礎を身につけた上で、子どもの言語感覚に向き合い、その新鮮さ、豊かさ気付くことを目指すものである。		
		初等社会	本授業では、社会科が学習対象とする「社会」という概念とそれを対象とする学問は、いつ、どのようにして誕生したのかを探り、市民社会の成立との関わりを理解する。社会科という教科は何のためにできたのか、その目的及び特性について理解する。子どもを取り巻く社会的環境について捉え、社会科の学習対象を理解する。こうした「社会」及び「社会科」の理解に立ち、内容構成の分析・検討を通して教科の特性を理解し、現代の社会と子どもに相応しい社会科授業の在り方について構想する。		
		初等理科	本授業では、「問いを生成し、問いを説明・予測する仮説を設定し、仮説を検証するための観察・実験を計画・実施し、観察・実験の結果をもとに仮説を検証する学習活動」であり「観察・実験をとおした問題解決」という特徴を有する理科について、小学生の発達と学びに対応した理科授業の構想・実践を見据え、学習指導要領の内容（エネルギー、粒子、生命、地球）や教科教育学の知見をもとに、初等理科に関する基本的な内容を理解できるようになることを目指す。		
		初等生活	本授業では、学習指導要領や幼稚園教育要領等において示された幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るため、低学年における教育全体の充実を図る上で重視すべき方向を表している生活科について、教科等間の横のつながりと、幼児期からの発達の段階に応じた縦のつながりととの結節点であることを理解する。また、生活科の役割や、その目標や内容、指導計画の作成と内容の取扱い、指導計画の作成と学習指導などを理解することを目的とする。		
		初等家庭	本授業では、小学校家庭科の目標である「児童が家族の一員として家庭生活を充実向上させようとする実践的態度を育成すること」を踏まえ、家庭科の指導内容等について理解を深め、創造的な視野をもって家庭科を指導できるよう、基本的知識及び技能を習得することをねらいとする。また、児童や家庭生活が直面する今日の課題と家庭科教育とのかかわりについて理解し、児童が自立して生きる基礎を培うための実践的態度を身につけ、家庭科教師としての資質や能力を養う。		
		初等体育	本授業では、現在抱える体育科教育の課題を勘案しながら、児童が生涯にわたって運動に親しみ、健康的な生活を送るために必要な身体を使った遊び、運動、自らの健康を保つための行動や生活の仕方について、小学校「体育科」の学習指導要領に基づき解説する。また、子どもの体力の向上や運動有能感を高める指導方法・評価を基盤とし、運動場面における気になる児童の理解や指導法についても実技を交えて実践的な知識や理解を深める。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主 専 攻 科 目	専 門 基 礎 科 目	2 教 科 ・ 保 育 内 容 に 関 する 科 目 群	初等英語	本授業では、小学校での授業場面を意識しながら、外国語活動・外国語の授業に必要とされる実践的な英語運用力（4技能・5領域）を身につけ、また、英語や第二言語習得に関する基本的な事柄や児童文学、異文化理解等、英語の背景的な知識について、小・中学校の接続を踏まえながら、身につけることをめざす。小学校での授業場面を意識した実践トレーニングとして、Classroom EnglishやALTとの基本英会話、Small Talk等を取り上げ、教室で使用する英語のスキルアップもめざす。さらに、予習・復習は、教科書だけでなく、教材のシャドーイングやYouTubeのmextchannelを活用しながら、4技能をバランスよく高めていく。語彙や発音については、定期的にチェックテストを行うことで、より確実な英語力の定着を図る。	
			子ども家庭支援論	本授業では、現代の子育て家族を取り巻く社会環境とそれに伴って生じる諸問題から、保育所、幼稚園、こども園、地域の子育て支援センター等の持つ「子育て支援」が重要な社会的役割を担っていることについて学ぶ。また、昨今の子育て支援施策や子育て家庭支援の制度についても学び、国として、どのように子育てで家庭の支援に取り組んでいるのかについても学ぶ。これらの基礎的な知識を踏まえ、子育て家庭に対する支援の意義、目的、と援助の方法について学ぶ。	
			子ども家庭支援の心理学	本授業では、子どもの成長と発達に関する心理学の理論、及び生涯発達における初期・幼小期の経験に関する心理学的知見を身に付ける。また、現代社会における家族の姿、子育ての現状、子どもにとって家族とは何か、家族が子どもに及ぼす影響、親子関係について論じ、さらに子どもの問題の理解と支援における家庭との連携を心理学的視点から学ぶ。これにより、家族にとっての子ども、子どもにとっての家族を理解し、家庭とのよりよい関係、連携を行いながら、子ども支援を行うための心理学的基礎、子ども家庭支援者としての基本的態度を身に付ける。	
			子どもの理解と援助	本授業では、子どもの理解と保育者の援助の在り方について学ぶ。「理解する」と言っても、子どもひとり一人が違う存在であり、また、「理解しようとする」保育者も、ひとり一人違うため、「子ども理解」もさまざまな理解が生じ、「どう理解したら正しいのか」ということにとらわれてしまうことも多い。さらに、「理解」と「援助」は表裏一体であると考えられるため、その援助についても、理解に合わせてさまざまな援助の方法がある。そのため、「（こうしたら）正しい／間違い」ととらわれることなく、子どもを理解するとは、また、援助するとはどういうことなのかについて学ぶとともに、その面白さ、難しさについて、さまざまな具体的な事例をとおして探究し、自らの子ども理解の視点を形作れるようになることを目指す。	
			子どもの食と栄養	本授業では、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解するとともに、保育における食育の意義・目的等について学ぶ。また、家庭や児童養護施設における食生活の現状と課題について理解を深めるとともに、食物アレルギー等の特別な配慮を要する子どもの食と栄養について学ぶ。これらの内容について、グループワーク等とおして理解を深め、保育士として、食生活と栄養の側面から子どもの心身の健康を捉え、援助するための基礎的な知識を身に付けることを目的とする。	
			子どもの健康と安全	本授業では、保育所保育指針第3章「健康及び安全」、関連するガイドライン、母子保健の動向及び近年のデータに基づく現状を踏まえて、保育に関する衛生管理・事故防止・安全対策・感染症対策・危機管理について理解する。さらに、事例、グループワーク、演習をおして、子どもの健康への関心を高め、保健的観点を踏まえた保育環境や子どもの心身の健康の保持と増進のための具体的な保育の関りや配慮を考察し、子どもの生命と心の安定が保たれ、健やかな生活を保障する保育の役割について理解を深めることを目的とする。	
			子どもの保健	本授業では、健康の概念、母子保健法及び母子保健施策、子どもの健康に関する現状について理解するとともに、疾病をもつ子どもと家族の健康問題や保育と家庭との連携について学び、子どもの心身と健康と保育の意義、課題を考える。また、子どもの健全な発育・発達及び身体の生理的特徴や子どもによくみられる症状や疾病において基礎知識を得て、子ども一人一人の健康状態の把握、体調不良時の観察と適切な対応、子どもの状態に応じた個別的な配慮、集団生活における子どもの疾病の予防について具体的に理解することを目的とする。事例でのディスカッション、グループワーク等とおして、保育の視点から子どもの健全育成における保健活動について自己の考えを持てるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
IV 主専攻科目	専門応用・実践科目	3教科・保育内容の指導法に関する科目群	人間関係の指導法	本授業では、領域「人間関係」についての基本となる理解を深め、保育実践における指導方法を学ぶために、「①子どもの発達過程に応じた人間関係を育むために必要な環境構成や、遊具・教材（情報機器教材を含む）の活用の仕方、及びそれらを活用する際の計画・実践・観察・記録・評価の方法とともに、保育者としてそれらを効果的に循環させて質の高い保育実践を行うための情報機器の活用の仕方や情報リテラシーについても学ぶ。」「②人間関係にかかわる保育場面の映像やエピソードを用いて、子どもの育ちの姿を見取り、領域「人間関係」の視点から考察することによって、乳幼児期の子どもが多様な育ちを学ぶ。」「③授業におけるグループワークでの対話をとおして、領域「人間関係」の指導についてグループメンバーと協働して取り組むことで体験的に学ぶ。」の3つを柱とした授業を行う。	
			環境の指導法	本授業は、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児教育の基本を踏まえ、身近な環境とのかかわりを通じた学びのプロセスや発達の諸側面について理解を深める。また、保育現場で見られるさまざまな事例や、ワークを通じた自分自身の体験を題材に、好奇心や探求心を育む保育内容の指導法を、具体的に考え理解を深めるとともに、模擬保育実施や保育の省察をとおして、よりよい保育の構想ができる保育者を目指す。	
			乳児保育演習	本授業では、「乳児保育」で学んだ基礎的な内容を踏まえ、0・1・2歳児の心身の発達過程を確認し、保育における保育者の援助やかかわりの基本について理解できるようにする。また、0歳児、1歳以上3歳未満児の基本的な生活習慣（食事・排泄・着脱・清潔）と安全・遊びについての保育の方法、環境構成や配慮の実践について具体的に学ぶ。さらに、子どもの気持ちを理解しようとする姿勢、一人一人の子どもに寄り添う保育や計画の作成などについて、事例検討やグループワークを取り入れた授業を展開し、乳児保育の基礎を身に付けることを目指す。	
			子育て支援	本授業では、少子高齢化社会の中での子育て家庭の状況を踏まえ、保育者の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談・助言・情報提供・行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。保育者の行う子育て支援についてさまざまな場所や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践等とおして身に付ける。知識を土台に多角的な視点を持ち、園、地域の子育て家庭における支援の必要性を理解し、保育者としてできる支援を探りながら手を差し伸べる手段を考えることを目指す。	
			初等音楽科教育法	本授業では、小学校音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された音楽科の学習内容について理解を深めるとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目的とする。「初等音楽」の学修内容を基盤として、歌唱共通教材や小学校音楽科の授業で取り扱う楽器等に関する基本事項の学修を深め、授業終盤ではこれらの学修と関連させながら学習指導案の作成及び模擬授業の実践を行う。また、この授業ではデジタル教科書等を活用する学習方法や小集団学習を導入する学習形態への知見を高めるために、適宜、情報機器（ICT）を活用する授業や小集団による討論等に取り組むものとする。	
			初等図画工作科教育法	本授業では、図工科教育に関する基礎的・基本的な知識を獲得し、授業を設計する力を育成することを目的とする。前半では、図工科教育の目標を理解するために、「主体的・対話的で深い学び」や「造形的な見方・考え方」について学ぶ。加えて、学習指導要領の目標、内容、全体構造の理解を踏まえて、背景となる学問領域との関係、個別の学習内容に関する指導上の留意点、子どもの認識・思考、学力等の実態について学ぶ。後半では、学習評価、情報機器及び教材の効果的な活用法、指導案の構成と授業設計に関する学修を行う。最後に、指導案の作成と模擬授業を行い、授業の設計・実施・振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。	
			健康の指導法	本授業では、領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。特に乳幼児期の健康に関わる基本的な生活習慣や健康管理、安全能力、心身の発育・発達、運動遊び等の理解を深めるとともに、小学校教育とのつながりにも着目した保育構想力や適切な指導方法を身に付ける。その際、学習を深めていくために模擬保育の実践や省察のサイクルに加え、毎回ワークシートを用いたグループワーク等の活動を多く取り入れることで、様々な保育場面における保育構想力を具体化する。	
			言葉の指導法	本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等に示された、乳幼児期の教育の基本の全体構造を踏まえた上で、領域「言葉」のねらいと内容について、小学校教育とのつながりを含めて理解するとともに、その指導上の留意点について、グループワーク等とおして理解を深める。また、乳幼児期の発達や学びのプロセスについて、言葉の側面から捉えた上で、それを踏まえた適切な保育、及び適切な指導・援助を具体的に構想し、模擬保育による実践をとおして、それを振り返り・評価し、改善する力を身に付けることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目	専門応用・実践科目	3教科・保育内容の指導法に関する科目群		
		保育の計画と評価	本授業では、保育現場で、保育所保育指針等とおして、それぞれの園が自園の保育の理念を持ち、それを基礎としてさまざまな計画が編成されていることを踏まえ、保育におけるさまざまな計画に関して、その作成と意義について理解を深める。また、保育の計画において特徴的な側面である、「子ども理解」からの計画の作成、省察としての評価など、保育の過程（プロセス）の循環の中で進められる計画と評価について、具体的な実践事例等とおして学ぶ。	
		初等算数科教育法	本授業では、学習指導要領に示された算数科の全体目標を踏まえ、発達段階に応じた目標の高まりを理解するとともに、目標を実現するために学習指導の内容・方法をどのようにしていけば良いのかを、代表的な例を取り上げながら学ぶ。その上で、具体的な授業場面を想定しながら、授業設計を行うために必要な教材研究の仕方、児童理解の基礎、学習指導案の書き方等を学ぶ。学んだことをもとにして、一人ひとりが教育者として、どのように授業をしていくのかを考え、深めていくことを目指す。	
		初等生活科教育法	本授業では、低学年教育の中心として位置づけられている生活科について、目標、資質・能力と目標改訂のポイントと内容について明らかにしながら、今回の学習指導要領改訂で重要視されている「主体的・対話的で深い学び」を実現するために生活科で大切にしたい授業改善の視点や生活科の「学習過程」をどうデザインしていくか、生活科における「カリキュラム・マネジメント」の充実をどう図っていくか「内容の取扱い」についても理解することを目的としている。また、理解したことを踏まえて演習を交えて実践的に学び、生活科で生き生きと学ぶ子どもを育てるために必要な環境構成、学習活動、学習形態、学習方法などを身に付けることを目指す。	
		特別活動の指導法（小）	特別活動は、多様な他者と協働する様々な集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の総体である。本授業では、学校教育全体における「なすことによって学ぶ」特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点について、育成を目指す資質・能力及び学習過程から理解する。また、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。	
		表現（造形）の指導法	本授業は、幼児造形教育の指導者に求められる基礎的・基本的な知識と技能の定着を図ること、それを足場として実践的知性を身に付けることである。学生は、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造、個別の内容と指導上の留意点、評価、様々な領域・表現との総合や図画工作科との接続、幼児の発達や認識・思考、動きに関する学びを修める。さらに、指導案の作成及び模擬保育の実施をこれまでの体系的な学びの集大成として扱い、アクティブ・ラーニングを取り入れた相互評価をおとして、教育・保育の構想力・実践力の向上を目指す。	
		表現（音楽）の指導法	本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。また、幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」にかかわる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を修得する。具体的には、「幼稚園教育要領」等に示された、幼児教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造等への理解を深めるとともに、幼児のさまざまな表現活動の中から特に音楽表現や劇表現の活動について実践的に学び、保育実践に必要な最低限の実践力を身に付ける。また、具体的な保育場面を想定した指導案を作成し、小集団で模擬保育の実施とその振り返りをおして保育の構想力を身に付ける。	
		社会的養護演習	本授業では、社会的養護において発達上・生活上のさまざまな困難や課題を抱える子どもの支援に従事する保育士として、子ども理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容を理解するとともに、施設養護及び家庭養護の実際、計画・記録・自己評価、社会的養護にかかわる保育の知識・技術、相談援助の知識・技術について学び、虐待の防止と家庭支援の理解に関する知識を身につけ、子どもとそれを取り巻く社会状況及び個々の子どもの理解及び支援について実践的な理解を深めることを目指す。	
初等国語科教育法	本授業では、小学校学習指導要領に示される小学校国語科の方向性を踏まえ、指導者として必要な知識や技能を身に付けるとともに、系統的、段階的な教材研究をおして、授業の目的、内容、及び教育方法（情報機器の活用を含む）、教育評価のあり方について体系的に学び、子どもの実態に応じた授業構想ができるようにする。それを踏まえて、模擬授業の実践を行い、主体的・対話的で深い学びを支える授業実践力習得に向けての基盤を形成する。なお、毎回の授業の冒頭、終末において、事前学習の共有化及び、授業学習内容の共有化をグループワークにより行う。			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
IV 主 専 攻 科 目	専 門 応 用 ・ 実 践 科 目	3 教 科 ・ 保 育 内 容 の 指 導 法 に 関 する 科 目 群	初等社会科教育法	本授業では、小学校社会科の教科目標である「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者としての公民的な資質・能力の基礎」について、背景となる学問領域や現代社会の状況を踏まえ、学習指導要領の内容及び育成する資質・能力から理解する。社会科における学習指導理論である問題解決的な学習の授業設計について、授業展開を想定した教材研究と教科書・資料及び情報機器の活用等を踏まえて「主体的・対話的で深い学び」を具現化する学習指導案を作成し、模擬授業をとおして身に付ける。	
			初等理科教育法	本授業では、初等理科における種々の目的に対応した指導法について構想できるようにすることを旨とする。この目的を達成するため、授業前半では、講義と初等理科で取り扱う主要な観察・実験を行うこととをとおして、初等理科における全体の構造、目標、内容に関する知識、ICTの活用法を学ぶ。授業後半では、講義と模擬授業をとおして、初等理科に関する小学生の実態、評価方法、初等理科で育成可能な諸概念とそれらの指導法について学ぶ。	
			初等家庭科教育法	本授業では、社会の要請に応じた変遷を辿ってきた家庭科の社会的背景について、その歴史の変遷について学びながら、現在の家庭科教育の位置づけを把握するとともに、学習指導要領に基づく現在の小学校における家庭科教育の意義と具体的な指導の在り方について理解する。その上で、指導上の留意点を踏まえ、「家族・家庭生活」「食生活」「衣生活」等具体的に効果的な指導計画立案を試み、理論と実践の往還を意識した学習をとおして、家庭科教育への理解を深めることを目指す。	
			初等体育科教育法	本授業では、小学校体育科指導の目標と内容を理解するとともに、各領域の特性を踏まえた個に応じた指導及び評価の在り方等について実践的に学ぶ。これまでの体験（小学校から受けてきた授業）と今日の具体的実践とを比較しながら、体育科における指導上の課題並びに個に応じた指導の在り方について整理し、小学校学習指導要領体育編に示された各学年の目標と各領域の主な内容を取り上げ、指導案づくりをとおして体育科の指導方法について学ぶ。作成した指導案を基に模擬授業を行い、学習指導上のポイント及び個に応じた指導のポイントを学ぶ。	
			初等英語科教育法	本授業では、小学校でよりよい外国語活動・外国語の指導ができるように、小学校外国語教育に関する基本的事項や授業に必要な知識を身につけると同時に、授業の様子を観察したり、45分の授業構想（指導案）に基づいた授業を展開したり、児童役として授業体験を行う等の学習形態を通して、実践的な指導技術を身につけることをめざす。扱う内容は、日本における外国語教育、指導者・指導環境、第二言語習得、コミュニケーション教育、教材・教具・言語活動、指導技術、指導計画と評価、模擬授業等、理論から実践まで多岐に及ぶ。理論的な内容を扱う際にもなるべく実際の授業や教育現場の様子を踏まえて解説し、また、模擬授業やさまざまな活動を考える際には、常に児童の考えや思いを想定しながら立案させる。	
			道徳の指導法（小）	本授業では、道徳哲学や道徳教育の歴史に触れながら、現代に生きる子どもたちの経験と個性に寄り添いながら、その道徳性を涵養するための「特別の教科道徳」の授業のありかたについて考える。子どもたちが自分で考え他者と討議しながら道徳的諸価値についての理解を深め、自己の生き方を考え実践力を高めしていくために、教師がどのようにかかわっていくかを考えることとをとおして、道徳教育のありかたについての自分の考えを持てるようになることを目指す。	
			総合的な学習の時間の指導法（小）	本授業では、総合的な学習の時間の意義である、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うこととをとおしてよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指すことを学ぶ。各学校において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する教科横断的な学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方、学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。	
			生徒指導論（小）	本授業では、学習指導と並んで教育における指導の柱とされ、教育における重要な機能を果たす生徒指導について、生徒指導の意義・原理、学校教育における役割、児童生徒理解、校内指導体制・校務分掌、教育相談との関係、生徒指導の方法、生徒指導の進め方と指導の実際・事例理解、養護教諭や保護者、専門家等の関係者・関係機関との連携、学校における組織的対応（チーム学校）、生徒指導と関係法制度・法令、これからの生徒指導について理解を深める。	
			進路指導論（小）	本授業では、進路指導が、児童生徒が自ら将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長できるように、教師が組織的・継続的に指導・援助する過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す教育活動であることを理解する。また、キャリア教育は、それを包含し学校と社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力を育むことを目的としていることを理解する。そして、進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
IV 主 専 攻 科 目	専 門 応 用 ・ 実 践 科 目	4 教 科 ・ 保 育 研 究 に 関 す る 科 目 群	保育内容研究A	<p>本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている領域について、総合的に捉える視点を実践的に学ぶことを目指し、具体的な保育教材の選択・研究を踏まえて、領域「言葉」と領域「表現」（音楽）の視点から、グループ単位で保育を構想し、実践する。実践後はグループワークをとおして振り返り、その反省評価を踏まえて教材研究を深める。そして「子どもの興味・関心と発達を踏まえた教材選択・教材研究とそれを活用した保育を構想・実践する力」を身に付けることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(④ 北川公美子／7回) 第4・5、8～11回で領域「言葉」についてのグループワークを担当する。第14回では授業全体の振り返りと、保育教材・保育実践への考察をする。</p> <p>(39 森広樹／7回) 第1回では領域「言葉」「表現」の内容確認と、授業回ごとの準備・役割分担をする。第2・3・6・7・12・13回で領域「表現（音楽）」についてのグループワークを担当する。</p>	オムニバス方式
			初等国語研究	<p>子どもの意欲を引き出し、主体的・協働的な国語科の授業を実践するためには、授業内容、方法のみならず、それを支える国語教育観の涵養が必要である。そのためには、国語科に対する理解と求められる役割について知るとともに、それを支える教材研究力が求められる。本授業では、「初等国語科教育法」での学びを踏まえ、教材研究の追究をとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した国語科授業を構想するとともに、実践後の評価・反省をとおして、総合的に国語教育力を高め、授業実践の基盤となる国語教育観を形成する。このようにして形成された国語科授業実践の基盤により、子どもの多様な発達と学びに対応した教育実習での授業実践につなげる。</p>	
			初等社会研究	<p>小学校学習指導要領（平成29年告示）の社会科においては、「持続可能な社会づくり」の観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育んでいくことが求められている。ESD（持続可能な開発のための教育）を通してSDGs（持続可能な開発目標）に迫る授業開発は、社会科教育における重要な課題である。本授業では、湘南キャンパスが立地する地域で、「持続可能な社会づくり」につながる教材を開発し、フィールドワークをして調査し、協働で授業の単元計画及び指導案の作成を行う。さらに、模擬授業を行い、授業研究を通して成果と課題の評価を行うことで、教育実習における実践的指導力を身に付ける。</p>	
			初等算数研究	<p>本授業では、算数科の内容をより深く学ぶために、問題解決型の授業をモデルとして、そこにかかわる算数・数学の本質を研究していく。子どもたちが意欲をもって主体的に学ぶために提示する教材、個人解決のみとり方、児童の解決に現れる数学的な考え方の意義と取り扱い方などを、具体的な授業内容に即して研究していく。先行研究を調べ、自分なりの教材観を持つとともに、授業内での協議をふまえて、自分の考えを深めていくことを目指す。</p>	
			初等理科研究	<p>本授業では、「観察・実験をとおして問題解決を行う」ための理科の授業を構想するために必要となる、予備実験を含む教材研究について理解を深める。そして、特に、観察・実験には不確定な要素が多いため、入念な準備や想定が重要となる小学生の観察・実験に関する教材研究の力を向上させることを目的とする。そして、教材研究の意義、方法、各領域の特徴を踏まえた留意点を学び、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付けることを目指す。</p>	
			初等生活研究	<p>本授業では、生活科の学習指導の特質である「①児童の思いや願いを育み、意欲や主体性を高める学習活動にすること」「②児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にし、本来一体となっている人や社会、自然と身体をとおして直接かわりながら、自らの興味・関心を発揮して具体的な活動や体験を行うことを重視すること」「③活動や体験の中で感じたり考えたりしている児童の姿を丁寧に見取り、働きかけ、活動の充実につなげること」「④表現したり、行ったりすることをおして、働きかける対象についての気付きとともに、自分自身についての気付きをもつことができるようにすること」を踏まえ、実践的な授業作りについて学び、必要な言葉がけや環境構成等のスキルを身に付けることを目的とする。</p>	
			初等音楽研究	<p>本授業では、これまでに身に付けた小学校教員として必要な音楽科に関する教科力を深めることを目的とする。この授業を通じて、小学校音楽科の授業実践に求められる小学校音楽科の知識及び技能、思考力・判断力・表現力等を、授業場面や特別活動等の場を具体的に想定しながら学修を深める。更に、小学校音楽科の授業実践に求められる小学校音楽科の学習指導のための教材研究等に必要となる専門的な知識及び技能を中心に、授業場面や特別活動等の場を具体的に想定しながら学修を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目 専門応用・実践科目	4 教科・保育研究に関する科目群 初等図画工作研究	本授業の目的は、図画工作科の教材研究（開発）を通して、指導上の様々な理念や方法、及び個別の指導上の留意点に関する見識を深め、それらを授業設計の改善のための視点として応用する力を身に付けることである。前半は、領域「A 表現」に関する教科書題材を選び、児童の立場で経験し、教師の立場から分析する。後半は、領域「B 鑑賞」の教材を開発し、やはり児童の立場で経験し、教師の立場から分析する。その際、発表や討議等のアクティブ・ラーニング方式の学びを通して、共通理解を前提とした見方・考え方の構築と伝達を行う。	
	初等家庭研究	本授業では、児童に、実践的・体験的な活動をとおして日常生活に必要な知識・技能を身につけさせるとともに、児童が家族の一員としての役割を自覚し、主体的に生活課題を解決していくことのできる力を育てることが重要となる家庭科について、「初等家庭」や「初等家庭科教育法」で学んだ内容を踏まえ、常に変化する社会や児童の生活の実態に合わせ、授業設計・教材開発を実践的に行う。さらに模擬授業等を実践し、自己評価、相互評価等を行うことにより、具体的な授業実践力を培う。	
	初等体育研究	本授業では、児童が生涯にわたって運動に親しみ、健康的な生活を送るために必要な身体を使った遊び、運動、自らの健康を保つための行動や生活の仕方について、小学校「体育科」の学習指導要領に基づき解説する。また、学齢期の各学年に応じた子どもの体力の向上や運動有能感を高める指導方法・教材・評価を構想し、児童の発達段階に応じた指導計画や指導案を作成する力を身に付ける。さらに、模擬授業や省察を通して、実践的な知識や理解を深める。	
	初等英語研究	本授業では、小学校の外国語活動・外国語の授業において、児童文学（絵本・歌等）、異文化理解、文構造・文法に焦点をあてた教材分析や教材開発ができ、それらを実践する力を身につけることをめざす。小学3、4年については“Let's Try!1・2”のUNITから、小学5、6年については、学生自らが選んだ教科書のUNITから、児童文学（絵本・歌等）、異文化理解、文構造・文法に焦点をあてた教材研究を行い、教材分析・教材開発レポートを作成し、実践発表を行う。それぞれ評価を行い、自らのふりかえりや他の学生の成果を通して、個々の学生の教材研究力を高める。	
	保育内容研究B	本授業では、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている領域について、総合的に捉える視点を実践的に学ぶことを目指し、具体的な保育教材の選択・研究を踏まえて、領域「健康」と領域「環境」の視点から、グループ単位で保育を構想し、実践する。実践後はグループワークをとおして振り返り、その反省評価を踏まえて教材研究を深める。そして「子どもの興味・関心と発達を踏まえた教材選択・教材研究とそれを活用した保育を構想・実践する力」を身に付けることを目的とする。 (オムニバス方式／全14回) ⑮ 木戸啓絵／7回 領域「環境」についてのグループワークを担当し、第4・5・8・9回は遊具や自然物を利用した保育活動を実践する。第12・13回は保育におけるESDやSDGsを概説する。第14回で授業全体のまとめをする。 ⑯ 綿引清勝／7回 第1回は領域「健康」と「環境」の内容確認と、授業回ごとの準備や役割分担をする。領域「健康」についてのグループワークを担当し、第2・3・6・7回は遊具や自然物を用いた保育活動を実践し、第10・11回は共生社会における保育活動について概説する。	オムニバス方式
5 教育・保育フィールド科目群	音楽実習A	本授業では、教育・保育現場で多く用いられるピアノを通して、音楽の基礎知識・技術の習得を目指すとともに、「春～夏」の季節や行事に関する童謡の伴奏技術を身に付ける。授業においては、それぞれの音楽経験や習熟度を考慮して「初級」「中級」「上級」のレベルを認定し、それに応じた練習曲・童謡を設定する。またレッスンは、レベルに合わせて集団または個人の形式で行う。これらをとおして、教員・保育者として最低限必要となるピアノ技術を身に付けるとともに、教育・保育現場において、子どもの音楽活動を支える資質能力を身に付ける。	
	音楽実習B	本授業では、「音楽実習A」での学びを踏まえ、教育・保育現場で多く用いられるピアノを通して、さらなる音楽の基礎知識・技術の向上を目指すとともに、「秋～冬」の季節や行事に関する童謡の伴奏技術を身に付ける。授業においては、それぞれの音楽経験や習熟度を考慮して「初級」「中級」「上級」のレベルを認定し、それに応じた練習曲・童謡を設定する。またレッスンは、レベルに合わせて集団または個人の形式で行う。これらをとおして、教員・保育者として必要となるピアノ技術、及び教育・保育現場における子どもの音楽活動を支える資質能力のさらなる向上を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主専攻科目	専門応用・実践科目	5 教育・保育 フィールド 科目群	学校体験活動	本授業では、小学校においては、主に児童や学習環境等に対する「観察・参加」と、学校実務に対する補助的な役割を担うことをとおして、具体的に、多様な児童の実態を把握し、またそれを踏まえた実習校の学校経営や教育活動の特色を理解するとともに、大学で学んだ専門的な知識・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面で実践するための基礎を学ぶ。幼稚園においては、保育者の補助的な役割を担いながら、主に幼児や保育環境等に対する「観察・参加」をおして、具体的に、多様な幼児の実態を把握し、それを踏まえた実習園の教育活動の特色を理解する。また、さまざまな場面で幼児とかかわりながら、大学で学んだ専門的な知識・技術等を保育で実践するための基礎を学ぶ。また、小学校と幼稚園の学校体験活動をおして、幼小の連携や学びの連続性について理解を深める。	
		地域連携ボランティア	本授業では、大学近隣の地域が抱える課題と向き合い、仲間とともに、その解決に向けてさまざまな手立てを考え、行動を起こすことをとおして、子どもを取り巻く地域社会への理解を深めることを目的とする。そして、本授業における「ボランティア」は、指定された内容についての「手伝い・サポート」ではなく、地域の課題に仲間とともに主体的に取り組み、その課題解決に向けた創造的な発想・具体的な行動をおして、「共生社会の実現」に向けた実践を学ぶものである。		
		保育実習指導 1（保育園）	本授業は、「保育実習 1（保育園）」の事前事後指導科目である。事前指導においては、第 1 回目となる保育園実習の意義と目的や実習の内容を理解するとともに、保育現場における実践活動の構想（実習の計画・実践・観察・記録）し、自己課題を設定し、目的・計画性をもって意欲的に実践活動を行うため準備を行う。またそのために必要となる知識・技能等や、実習生としての義務と心構え、保育園における子どもの人権と最善の利益の考慮や、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。事後指導においては、自らの保育実践を振り返り、実習の総括と自己評価を行い、今後の学びに向けた自己課題を明確にする。 (オムニバス方式／全14回) (⑩ 及川留美・⑪ 小池はるか・21 石井則子／2回) (共同) 第1回は個々の学生の保育園実習における学びを検討する。第14回は保育園実習を総括する。 (⑩ 及川留美／4回) 第2～4回は保育園実習の意義や目的、概要を解説する。第12回は実習後、学生が事前に構想した実践内容や課題について、リフレクションを行う。 (⑪ 小池はるか／4回) 第5・6・8回は実習の内容、実習生としての心構え・事前準備を概説する。第13回は「子どもや保育者から学んだこと」についてリフレクションを行う。 (21 石井則子／4回) 第7・9～11回は保育園実習における実践活動を構想し、指導案の作成を指導する。	オムニバス方式・共同（一部）	
		保育実習 1（保育園）	本授業では、保育士の補助的な役割を担いながら、主に乳幼児と保育環境等に対する「観察・参加」をおして、具体的に、多様な乳幼児の実態や保育士の役割を把握し、子ども理解を深めるとともに、保育士業務内容や職業倫理や、保育園の役割や機能について具体的に理解する。また、大学で学んだ専門的な知識・技術等を踏まえて、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解するとともに、保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主専攻科目 専門応用・実践科目	5 教育・保育 フィールド 科目群 保育実習指導 1 (施設)	<p>本授業は、「保育実習 1 (施設)」の事前事後指導科目である。事前指導においては、児童福祉施設実習の意義と目的や実習の内容を理解するとともに、保育現場 (施設) における実践活動を構想 (実習の計画・実践・観察・記録) し、自己課題を設定し、目的・計画性をもって意欲的に実践活動を行うため準備を行う。またそのために必要となる知識・技能等や、実習生としての義務と心構え、児童福祉施設における子どもの人権と最善の利益の考慮や、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。事後指導においては、自らの保育・支援実践を振り返り、実習の総括と自己評価を行い、今後の学びに向けた自己課題を明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(② 尾里育士・⑥ 関戸英紀・⑪ 小池はるか/2回) (共同) 第1回は児童福祉施設の目的・役割、施設実習の意義・目的を概説する。第14回は施設実習を総括する。</p> <p>(② 尾里育士/5回) 第2回は施設保育士の職務内容を概説する。第9～11回は施設実習の実践活動を構想し、指導計画案作成を指導する。第13回は「子ども・利用者・保育者から学んだこと」に対するリフレクションを行う。</p> <p>(⑥ 関戸英紀/3回) 第6・7回は施設実習の進め方、日誌の書き方等を概説する。第12回は実践活動に対するリフレクションを行う。</p> <p>(⑪ 小池はるか/4回) 第3～5回は実習対象施設の目的と概要、専門スタッフの役割を概説する。第8回は実習生としての心構えと事前準備を解説する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	保育実習 1 (施設)	<p>本授業では、児童福祉施設等の役割や機能、及び施設保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解するとともに、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、施設保育士の補助的な役割を担いながら、主に「観察・参加」の方法をとおして、具体的に、多様な子どもの実態を把握し、さまざまな環境、発達等の状況にある子どもへの理解を深め、その個々の子どもに応じた、保育の計画・観察・記録及び自己評価等の実践について、具体的に学ぶ。</p>	
	教育実習指導 (幼稚園)	<p>本授業では、「教育実習 (幼稚園)」の事前事後指導科目として、事前指導においては、幼稚園実習の意義と目的、実習の内容や方法について理解するとともに、教育現場における実践活動の構想 (実習の計画・実践・観察・記録) し、自己課題を設定し、目的・計画性をもって意欲的に実践活動を行うため準備を行う。また、そのために必要となる、日誌の書き方や指導案立案の仕方、守秘義務等の実習生として遵守すべき義務や心構えについて理解を深める。事後指導においては、自らの教育実践と、実習で得られた知識と経験を総括的に振り返り、適切な自己評価を行い、教員免許取得までに身に付けなければならない知識や技能等について、今後の学びに向けた自己課題を明確にする。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(④ 北川公美子・⑯ 天野美和子・⑳ 木戸啓絵/2回) (共同) 第1回は「学校体験活動」の幼稚園での実践活動を振り返る。第14回は教育実習を総括する。</p> <p>(④ 北川公美子/4回) 第2・8回は教育実習の意義や目的、実習生としての心構えを概説する。第12・13回は「実践活動」及び「子ども・保育者から学んだこと」に対するリフレクションを行う。</p> <p>(⑯ 天野美和子/4回) 第7、9～11回は教育実習における実践活動を構想し、指導案の作成を指導する。</p> <p>(⑳ 木戸啓絵/4回) 第3～6回は実習内容、進め方、日誌の書き方、それらの意義と概要を解説する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主専攻科目	専門応用・実践科目 5 教育・保育フィールド科目群	教育実習（幼稚園）	本授業では、幼稚園における「学校体験活動」の学びを踏まえた上で、主に「参加・実習」という教育方法をとおして、学級担任の役割や職務内容を理解するとともに、さまざまな活動場面においても幼児とかかわりながら、より多様な幼児の発達や学びへの理解を深め、その実態に応じた指導力を身に付ける。そして、その多様な子ども理解と、幼稚園教育要領等を踏まえた指導案を作成して保育を展開し、情報機器の活用を含めた、保育に必要な基礎的技術を身に付け、教育実践力の向上を目指す。	
		教育実習指導（小学校）	本授業は、「教育実習（小学校）」の事前事後指導科目である。事前指導においては、小学校実習の意義と目的、実習の内容や方法について理解するとともに、教育現場における実践活動の構想（実習の計画・実践・観察・記録）し、自己課題を設定し、目的・計画性をもって意欲的に実践活動を行うため準備を行う。また、そのために必要となる、日誌の書き方や学習指導案立案の仕方、守秘義務等の実習生として遵守すべき義務や心構えについて理解を深める。事後指導においては、自らの教育実践と、実習で得られた知識と経験を総合的に振り返り、適切な自己評価を行い、教員免許取得までに身に付けなければならない知識や技能等について、今後の学びに向けた自己課題を明確にする。 (オムニバス方式／全14回) (③ 神戸佳子・⑨ 山本康治／2回) (共同) 第1回は「学校体験活動」の小学校での実践活動を振り返る。第14回は教育実習を総括する。 (③ 神戸佳子／6回) 第3・6～8回は教育実習の内容を解説し、実践活動を構想して指導案の作成を指導する。第12・13回は実習を振り返り、学校教育の課題、教師の役割について検討する。 (⑨ 山本康治／4回) 第2・4・5回は教育実習の意義・目的、事前準備等を解説する。第9～11回は「実践活動」「児童・教師から学んだこと」に対するリフレクションを行う。	オムニバス方式・共同（一部）
		教育実習（小学校）	本授業では、小学校における「学校体験活動」の学びを踏まえた上で、主に「参加・実習」という教育方法をとおして、学級担任の役割や職務内容を理解するとともに、教科指導以外のさまざまな活動場面においても児童とかかわりながら、より多様な児童の発達や学びへの理解を深め、その実態に応じた指導力を身に付ける。そして、その多様な子ども理解と、学習指導要領を踏まえた学習指導案を作成して授業を展開し、情報機器の活用を含めた、学習指導に必要な基礎的技術を身に付け、教育実践力の向上を目指す。	
		保育実習指導 2	本授業は、「保育実習 2」の事前事後指導科目である。事前指導においては、第2回目となる保育園実習の意義と目的を理解し、これまでの授業や実習での学びと関連づけながら、保育を総合的に理解し、保育現場における実践活動を構想し、目的・計画性をもって実習に臨むための知識・技能等を身に付けるとともに、保育士の専門性や職業倫理について理解を深める。事後指導においては、自らの保育実践を振り返り、実習の総括と自己評価を行い、保育及び保育士という仕事に対する課題や認識を明らかにするとともに、保育士として自分に求められる資質能力を向上させるための自己課題を明確にする。 (オムニバス方式／全14回) (⑩ 及川留美・⑪ 小池はるか・21 石井則子／2回) (共同) 第1回は「保育実習 1（保育園）」を振り返り、保育としての資質を自己評価する。第14回は保育園実習を総括する。 (⑩ 及川留美／4回) 第2・4・5回は保育園実習の意義や目的を学び、乳児の年齢に応じた保育内容を検討する。第12回は実践活動に対するリフレクションを行う。 (⑪ 小池はるか／4回) 第6・7・9回は実習日誌の書き方を解説し、実習の事前準備を確認する。第13回は「子どもや保育者から学んだこと」に対するリフレクションを行う。 (21 石井則子／4回) 第3回は保育士の専門性・職業倫理を概説する。第8・10・11回は保育園実習における実践活動を構想し、指導案の作成を指導する。	オムニバス方式・共同（一部）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主専攻科目	専門応用・実践科目	5 教育・保育フィールド科目群	保育実習2	本授業では、「保育実習1（保育園）」における学びを踏まえた上で、主に「参加・実習」という教育方法をとおして、子どもの保育や子育て支援について総合的に理解するとともに、保育士の業務内容や職業倫理、保育園の役割や機能について、具体的な実践と結びつけて学ぶ。また、明確な観察する視点やかかわりの視点を持ち、実習における明確な自己課題をもつことで、保育への理解を深めるとともに、保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実践的に学び、自らの保育実践力の向上を目指す。	
		教職・保育実践演習（幼・小・保）	<p>本授業では、教員・保育者としての必要となる専門的知識と技術、総合的な判断力や倫理観等の資質能力を確認し、またその向上を目指すことを目的とする。幼稚園教諭・小学校教諭及び保育士としてこれまで大学で学んできたことを整理するとともに、履修カルテ（これまでの履修記録、実践記録、及び授業時に作成した学びの記録）等）を通じた自己評価や自己理解の把握、グループ討議、教育・保育現場の観察を通じた自己評価と自己課題への取り組み、指導案作成、模擬保育・授業及び「教員・保育者として求められる資質能力」に関する討議のまとめをおして、学科が設定する学習成果の観点とそのバランスについて自己評価を行い、これまで身につけた自己の能力についての確認を行う。その上で、授業を通し、自らが求める資質能力に関する課題を明確化し、その資質能力の向上・定着を目指す。</p> <p>（オムニバス方式／全14回）</p> <p>③ 神戸佳子・⑭ 實來生志子・⑧ 前田晶子・⑨ 山本康治・⑪ 小池はるか・⑫ 臧俐・⑬ 中上健二・⑦ 田中統治／5回）（共同） 第8～12回は学生数名による模擬授業・保育を実践し、評価することで指導力と課題を明確化する。</p> <p>⑭ 實來生志子／1回） 第5回は幼児・児童理解及び学校経営についてこれまでの学びを振り返る。</p> <p>⑧ 前田晶子／2回） 第3回は保育士の意義と役割についてこれまでの学びを振り返り、第13回は現代的課題に対する教員・保育者の役割を検討する。</p> <p>⑪ 小池はるか／2回） 第4回は教員・保育者の社会性及び人間関係能力について、第6回は保育士の専門性について、これまでの学びを振り返る。</p> <p>⑫ 臧俐／1回） 第2回は教職の意義・役割・職務内容及び子どもに対する責任についてこれまでの学びを振り返る。</p> <p>⑦ 田中統治／3回） 第1回はこれまでの学び、第7回は本科目のこれまでの授業を振り返り、第14回は本科目の総括として、教育・保育者としての資質能力を学科の学習成果を指標に自己評価する。</p>	オムニバス方式・共同（一部）	
専門発展科目	6 特化プログラム群	子育て支援実習A	本授業では、学内に開設された子育て支援施設「あかちゃんひろば」に参加する、3歳未満の子どもと保護者を対象とし、担当教員の助言を受けながら、「親子関係の理解」「保護者理解」「子育て支援の役割理解」を深める。毎回参加親子が固定されていないため、対象となる子どもの発達や保護者の状況、その親子関係について幅広く、またきめ細かく目を向け理解を深めるとともに、子育て支援の役割を実践的に理解する。実践の場においては、実際の親子の状況に合わせて、臨機応変に対応し、実践終了後は科目担当教員の助言を踏まえ、個人及びグループで適切な反省・評価を行う。これらの活動をおして、「親子関係の理解」や「保護者理解」について学びを深め、保育者として求められる「子育て支援の役割理解」を深めることを目指す。		
		国際教育理解	本授業では、日本社会の国際化と教育分野における国際理解教育を主なテーマとし、具体的事例を通じて、異なる文化をもつ人々（子ども・保護者）を受容・理解する気持ちや共生する態度を養うと同時に、相互理解を図る力や共生社会に生きるための協働力と自己発信力を身につけることを目指す。さらに、複数の言語・文化の中で育ち、言葉を獲得していくことで養うことができる能力について知るとともに、留意すべき点や課題についても理解を深める。		
		海外教育体験A	本授業は、夏季休暇中（8～9月）に2週間程度、デンマーク・コペンハーゲンにある東海大学ヨーロッパ学術センターを拠点に、現地の保育園、小学校等での体験をおして、日本の教育・保育とは、違った教育目標、教育課程、教育内容・方法を持つ他国の教育・保育を体験的に学ぶ。事前指導において、現地の社会・文化等に対する理解を深めるとともに、その国における教育・保育に対する考え方を深める。実施後は、改めて日本の教育・保育を相対化しながら、グローバルな視点から、人間社会における「教育・保育」について考え、現在及びこれからの「教育・保育」について自らの考えをもつことを目的とする。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	専 門 発 展 科 目	6 特 化 プ ロ グ ラ ム 群		
		子育て支援実習B	本授業では、学内に開設された子育て支援施設「あかちゃんひろば」に参加する、3歳未満の子どもと保護者を対象とし、担当教員の助言を受けながら、学生同士で、保護者支援及び親子支援を構想、実践する。毎回参加親子が固定されていないため、前回の実践内容を振り返りながら、対象となる子どもの発達や保護者の状況を、幅広く、またきめ細かく想定し、子育て支援の役割を実践的に理解する。また、個々の保護者の内面を汲み取り、理解を深めるとともに、それに応じた支援を考える。実践の場においては、実際の親子の状況に合わせて、臨機応変に対応し、実践終了後は、「あかちゃんひろば」担当保育士や科目担当教員の助言を踏まえ、個人及びグループで適切な反省・評価を行う。これらの活動をとおして、「保護者支援」「親子支援」について学びを深め、保育者としての「子育て支援」に関する資質能力を高めることを目指す。	
		海外教育体験B	本授業は、春季休暇中（2～3月）に2週間程度、タイ・バンコクにある東海大学アセアノオフィスを拠点に、現地の保育園、小学校等での体験をとおして、日本の教育・保育とは違った教育目標、教育課程、教育内容・方法を持つ他国の教育・保育を体験的に学ぶ。事前指導において、現地の社会・文化等に対する理解を深めるとともに、その国における教育・保育に対する考え方を深める。実施後は、改めて日本の教育・保育を相対化しながら、グローバルな視点から、人間社会における「教育・保育」について考え、現在及びこれからの「教育・保育」について自らの考えをもつことを目的とする。	
		接続期カリキュラム研究A	本授業では、学習指導要領に示された「学校段階等間の接続」、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をとおした幼小の接続期の重要性を踏まえ、子どもを連続的に捉える力を向上させるために、接続期カリキュラムの約10年間の変遷や幼児教育における遊びの中の学びの姿、年長児後半のアプローチカリキュラムの編成の仕方について学ぶ。また、幼児教育と小学校教育の違いやつながりについて、幼児教育の実践例をとおして、子どもの姿を写真や動画で見ながら実践的に学び、子どもの学びの連続性の理解を深める。	
		特別支援教育指導論	本授業では、幼稚園や小学校の通常の学級に在籍する、障害の有無にかかわらず、さまざまな教育的ニーズのある幼児・児童に対し、実態を的確に把握し、適切な支援を行うためには、各障害に関する知識や理解とともに、幼児・児童のさまざまな特別の教育的ニーズに基づいて支援できるだけの理論及び知識や技能も必要とされる。各障害の特性の理解とそれに応じた具体的な支援方法を習得できること並びに特別支援学級・通級による指導の教育課程及び指導の実践について理解することを目的とする。	
		教育・保育インターンシップA	本授業では、定期的、且つ長期的な教育・保育現場での実践活動をとおして、「多様な子どもの発達と学びの理解」と「それに基づく教育・保育実践力」の確認、及びその資質能力の向上を目的とし、週1日、実際の教育・保育現場（幼稚園・保育所・小学校・施設・特別支援学校等）において実践活動を行う。授業の最初に、本授業における、「多様な子どもの発達と学びの理解を基盤とする教育・保育実践力」にかかわる「自己課題」を設定し、その後の実践活動においては、その「自己課題」を達成できるように、毎回「今回のねらい」を設定するとともに、それを達成するための実践計画を立てる。実践後は、「今回のねらい」に関するレポートを作成し、自分の実践を振り返り、自己評価を行うとともに、担当教員及び受け入れ先からのコメントを踏まえて、次回の「今回のねらい」を設定し、自律的に学ぶ。	
		接続期カリキュラム研究B	本授業では、学習指導要領に示された「学校段階等間の接続」、幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をとおした幼小の接続期の重要性を踏まえ、子どもを連続的に捉える力を向上させるために、小学校入学当初のスタートカリキュラムの編成の仕方について学ぶ。また、幼児教育と小学校教育の違いやつながりについて、小学校教育の実践例をとおして、子どもの姿を写真や動画で見ながら実践的に学び、子どもの学びの連続性の理解を深める。	
アダプテッド・スポーツ	本授業では、性別や年齢、体力、スポーツ経験の有無に関わらず誰でも気軽に参加して楽しむことができるよう、ルールや用具を工夫し対象者へ適合(adapt)させた、アダプテッド・スポーツについて、その基本的な理解と最近の知見を知るとともに、一人一人の発育・発達や身体機能等に応じてスポーツを楽しむことを目的とする。そしてさまざまなアダプテッド・スポーツの体験やプログラムづくりをとおして、対象者に応じた活動を工夫することの意義や楽しさ、運動場面におけるつまづきの理解と対応を事例的に検討し、理解を深める。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
IV 主 専 攻 科 目	専 門 発 展 科 目	6 特 化 プ ロ グ ラ ム 群	障がい児保育指導論	本授業では、実際の保育・教育現場に在籍する、障がいを含めさまざまな特別の支援を必要とする子ども、また、離席・暴言・暴力を示す子どもや集団に参加できない子どもについて、そのような子どもの問題行動を改善し、適切な行動を形成するための、アセスメント、目標の設定、支援計画の作成、具体的な支援方法、評価、レポートの作成に関する具体的かつ科学的な知識及び技能を身に付けることを目的とする。そして、将来、保育・教育現場で特別の支援を必要とする子どもに出会った際に、自らの力で課題解決ができる知識及び技能を習得できることを目指す。	
		保育の歴史	本授業は、子育て・保育の歴史を扱い、とくに発達観の変遷について学習する。現在の多様化する幼児教育・保育の現場において、福祉と教育をつないで実践するための基本的視点を得ることを目的とする。具体的には、江戸期の高い乳児死亡率や子返し・子捨ての実態について学習し、さらに近代化の過程で直系単婚家族から核家族へと変化するなかで、出産や育児が変化してきたことを学ぶ。そして、発達観の歴史と近年の発達論を取り上げる。また、保育・教育実践の土台となる発達観と「子どもの権利」について考察する。		
		野外体験保育	本授業では、近年、子どもを取り巻く環境が著しく変化する中で、気候変動をはじめ地球規模の課題が、子どもの育ちにも大きな影響を与えていることを踏まえ、持続可能な社会を保育の立場から考えていく。地域の文化と国際的な潮流のどちらも大切にしながら、自然と人間のよきより関係性をエコロジカルに捉える視点を育む。保育現場のフィールドに向き、実際に子どもたちとかわる経験などをおとして、子どもの育ちに自然がどのような意味を持つのか理解を深める。		
		子どもと文学	本授業では、「児童文学」をテーマとして、日本と西洋の児童文学（童話・昔話等）を具体的な例として取り上げ、分析・考察を行う。そして、教材として児童文学について、子ども及び教育・保育の視点からその意義を考えることをおとして、深い教材研究の方法を身に付けることを目的とする。 (オムニバス方式/全14回) (④ 北川公美子・⑨ 山本康治/2回) (共同) 第1回は学生がこれまでに触れてきた児童文学について、意見交換する。第14回は授業を総括し、教材研究、児童文学を教材とする教育・保育のありかたを検討する。 (④ 北川公美子/6回) 第8～13回はアンデルセン童話について文化的背景、子ども視点での捉え方、教材としての意義・役割を考察する。 (⑨ 山本康治/6回) 第2～7回は日本の昔話・童話・詩歌について文化的背景、子ども視点での捉え方、教材としての意義・役割を考察する。	オムニバス方式・共同(一部)	
		教育・保育インターンシップB	本授業では、「教育・保育インターンシップA」での学びを踏まえ、定期的、且つ長期的な教育・保育現場での実践活動をおとして、「多様な子どもの発達と学びを踏まえた構想・実践」にかかわる、自らの「教育・保育構想力及び教育・保育実践力」の確認と、更なる資質能力の向上を目的とし、週1日、実際の教育・保育現場(幼稚園・保育所・小学校・施設・特別支援学校等)において実践活動を行う。「課題設定⇒実践⇒振り返り」という自律的な学びのサイクルの中で、「多様な子どもの発達と学びの理解と実践」にかかわる自らが求める資質能力の確かな定着と向上を目指す。		
	7 卒 業 研 究 科 目 群	発展ゼミナール1	本授業では、これまで学んだ子ども・教育・保育、及びそれらを取り巻く社会に関する知識・技能等を踏まえ、それらをより深めるための、研究活動スキルを身に付けることを目的とする。これまでの学びから生じた自らの課題意識を明確化し、その課題解決に向けて、文献調査、文献講読、調査研究等をおして得たものを、適切に把握・分析し、自分の考えとして表現することをとおして、自らの課題解決に向けた研究テーマの設定の仕方、及びその研究内容・方法を身に付ける。		
発展ゼミナール2	本授業では、これまで学んだ子ども・教育・保育、及びそれらを取り巻く社会に関する知識・技能等を踏まえ、それらをより深めるための、「発展ゼミナール1」で身に付けた研究活動スキルをさらに高めるとともに、より広範囲な視点から「卒業研究」につながる研究内容と方法、研究テーマを設定し、研究活動を進める。そのため、自らの課題意識をより詳細に明確化し、その課題解決に向けて、より広範囲を対象とした先行研究の収集・整理を行うとともに、文献調査・講読、調査研究等の、より詳細な内容把握や分析を行い、自分の考えを深める。				

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
IV 主 専 攻 科 目	専 門 発 展 科 目	7 卒 業 研 究 科 目 群	卒業研究 1	本授業では、「発展ゼミナール2」における研究活動をもとに、子どもと子どもを取り巻く社会状況、及び社会における教育・保育の役割を理解した上で、自らの興味関心を深める研究テーマ、内容、方法を検討する。そして、個人またはグループによる文献調査や調査研究等の研究活動をおとして、教育・保育に対する理解を深めるとともに、現在の教育・保育の構想・実践における課題に対する自らの考えを深め、教員・保育者としての資質能力の向上を目指す。	
			卒業研究 2	「卒業研究1」をおとして得た研究内容について、その研究計画及び活動を再検討し、課題解決に向けて、より詳細で具体的な研究活動を行う。そして、個人またはグループによる文献調査や調査研究等の研究活動をおとして、教育・保育に対する理解を深めるとともに、現在の教育・保育の構想・実践における課題に対する自らの考えを深め、その研究成果を「卒業研究レポート（論文）」としてまとめ、自らの教員・保育者としての資質能力の向上とその確認を目的とする。	

学校法人東海大学 設置認可等に関する組織の移行表

令和3年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	
文学部	文明学科	60	—	240		
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200	
		西洋史専攻	50	—	200	
		考古学専攻	30	—	120	
	日本文学科	90	—	360		
英語文化コミュニケーション学科	90	—	360			
文化社会学部	アジア学科	70	—	280		
	ヨーロッパ・アメリカ学科	70	—	280		
	北欧学科	60	—	240		
	文芸創作学科	60	—	240		
	広報メディア学科	100	—	400		
	心理・社会学科	90	—	360		
政治経済学部	政治学科	160	—	640		
	経済学科	160	—	640		
	経営学科	160	—	640		
法学部	法律学科	300	—	1200		
教養学部	人間環境学科	自然環境課程	65	—	260	
		社会環境課程	95	—	380	
	芸術学科	音楽学課程	32	—	128	
		美術学課程	20	—	80	
		デザイン学課程	38	—	152	
国際学科	80	—	320			
体育学部	体育学科	110	—	440		
	競技スポーツ学科	140	—	560		
	武道学科	60	—	240		
	生涯スポーツ学科	110	—	440		
	スポーツレジャーマネジメント学科	60	—	240		
健康学部	健康マネジメント学科	200	—	800		
理学部	数学科	80	—	320		
	情報数理学科	80	—	320		
	物理学科	80	—	320		
	化学科	80	—	320		
情報理工学部	情報科学科	100	—	400		
	コンピュータ応用工学科	100	—	400		
工学部	生命化学科	100	—	400		
	応用化学科	80	—	320		
	光・画像工学科	60	—	240		
	原子力工学科	40	—	160		
	電気電子工学科	140	—	560		
	材料科学科	80	—	320		
	建築学科	200	—	800		
	土木工学科	120	—	480		
	精密工学科	80	—	320		
	機械工学科	140	—	560		
	動力機械工学科	150	—	600		
	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	90	—	360	
		航空操縦学専攻	50	—	200	
	医用生体工学科	60	—	240		
観光学部	観光学科	200	—	800		
情報通信学部	情報メディア学科	80	—	320		
	組込みソフトウェア工学科	80	—	320		
	経営システム工学科	80	—	320		
	通信ネットワーク工学科	80	—	320		
海洋学部	海洋文明学科	80	—	320		
	環境社会学科	80	—	320		
	海洋地球科学科	80	—	320		
	水産学科	120	—	480		
	海洋生物学科	90	—	360		
	航海工学科	航海学専攻	20	—	80	
		海洋機械工学専攻	60	—	240	
	医学部	医学科	118	—	708	<small>118名は令和3年度入学生まで</small>
看護学科		85	—	340		
経営学部	経営学科	150	—	600		
基盤工学部	観光ビジネス学科	80	—	320		
	電気電子情報工学科	80	—	320		
	医療福祉工学科	60	—	240		

令和4年度

東海大学

学 部	学科・専攻・課程	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由	
文学部	文明学科	60	—	240			
	歴史学科	日本史専攻	50	—	200		
		西洋史専攻	50	—	200		
		考古学専攻	30	—	120		
	日本文学科	90	—	360			
英語文化コミュニケーション学科	90	—	360				
文化社会学部	アジア学科	70	—	280			
	ヨーロッパ・アメリカ学科	70	—	280			
	北欧学科	60	—	240			
	文芸創作学科	60	—	240			
	広報メディア学科	100	—	400			
	心理・社会学科	90	—	360			
政治経済学部	政治学科	<u>200</u>	—	<u>800</u>		定員変更(40)	
	経済学科	<u>200</u>	—	<u>800</u>		定員変更(40)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
経営学部	経営学科	<u>230</u>	—	<u>920</u>		学部の設置(認可又は届出)	
法学部	法律学科	300	—	1200			
教養学部	人間環境学科	人間環境学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(Δ40)
		芸術学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>		定員変更(Δ20)
			<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止
国際学部	国際学科	<u>200</u>	—	<u>800</u>		学部の設置(認可又は届出)	
児童教育学部	児童教育学科	<u>150</u>	—	<u>600</u>		学部の設置(認可)	
体育学部	体育学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(10)	
	競技スポーツ学科	<u>170</u>	—	<u>680</u>		定員変更(30)	
	武道学科	60	—	240			
	生涯スポーツ学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(10)	
	スポーツレジャーマネジメント学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>		定員変更(10)	
健康学部	健康マネジメント学科	200	—	800			
理学部	数学科	80	—	320			
	情報数理学科	80	—	320			
	物理学科	80	—	320			
	化学科	80	—	320			
情報理工学部	情報科学科	100	—	400			
	コンピュータ応用工学科	100	—	400			
	情報メディア学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の学科の設置(認可又は届出)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	生物工学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の学科の設置(認可又は届出)	
	応用化学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		定員変更(20)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	電気電子工学科	<u>120</u>	—	<u>480</u>		定員変更(Δ20)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	機械システム工学科	<u>140</u>	—	<u>560</u>		学部の学科の設置(認可又は届出)	
	機械工学科	140	—	560			
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	航空宇宙学科	90	—	360			
		航空宇宙学専攻	90	—	360		
		航空操縦学専攻	50	—	200		
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	医工学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>		学部の学科の設置(認可又は届出)	
建築都市学部	建築学科	<u>240</u>	—	<u>960</u>		学部の設置(認可又は届出)	
	土木工学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の設置(認可又は届出)	
観光学部	観光学科	200	—	800			
情報通信学部		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	情報通信学科	<u>240</u>	—	<u>960</u>		学部の学科の設置(認可又は届出)	
人文学部	人文学科	<u>180</u>	—	<u>720</u>		学部の設置(認可又は届出)	
海洋学部		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	水産学科	120	—	480			
	海洋生物学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>		定員変更(Δ10)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
	海洋理工学科	<u>130</u>	—	<u>520</u>		学部の学科の設置(認可又は届出)	
		<u>20</u>	—	<u>80</u>		学部の学科の設置(認可又は届出)	
医学部	医学科	110	—	660		臨時定員増(8)は令和3年度まで	
	看護学科	<u>95</u>	—	<u>380</u>		定員変更(10)	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
		<u>0</u>	—	<u>0</u>		令和4年4月学生募集停止	
文理融合学部	経営学科	<u>130</u>	—	<u>520</u>		学部の設置(認可又は届出)	
	地域社会学科	<u>100</u>	—	<u>400</u>		学部の設置(認可又は届出)	
	人間情報工学科	<u>70</u>	—	<u>280</u>		学部の設置(認可又は届出)	

令和3年度

農学部	応用植物科学科	80	—	320
	応用動物科学科	80	—	320
	バイオサイエンス学科	70	—	280
	計	6773	—	27328
国際文化学部	地域創造学科	110	—	440
	国際コミュニケーション学科	80	—	320
	デザイン文化学科	70	—	280
生物学部	生物学科	70	—	280
	海洋生物科学科	70	—	280

令和4年度

農学部	農学科	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	動物科学科	80	—	320	学部の学科の設置(認可又は届出)
	畜生命科学科	70	—	280	学部の学科の設置(認可又は届出)
	計	6855	—	27640	
	国際文化学部	地域創造学科	110	—	440
	国際コミュニケーション学科	80	—	320	
生物学部	生物学科	75	—	300	令和4年4月学生募集停止 定員変更(5)
	海洋生物科学科	75	—	300	定員変更(5)

東海大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	備考
総合理工学研究科	総合理工学専攻 (D)	35	—	105	
生物科学研究科	生物科学専攻 (D)	10	—	30	
文学研究科	文明研究専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
	史学専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
	日本文学専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
	英文学専攻 (M)	4	—	8	
		(D)	2	—	6
	コミュニケーション学専攻 (M)	8	—	16	
		(D)	4	—	12
観光学専攻 (M)	8	—	16		
政治学研究科	政治学専攻 (M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15
経済学研究科	応用経済学専攻 (M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15
法学研究科	法学専攻 (M)	10	—	20	
		(D)	5	—	15
人間環境学研究科	人間環境学専攻 (M)	10	—	20	
芸術学研究科	音響芸術専攻 (M)	4	—	8	
	造形芸術専攻 (M)	4	—	8	
体育学研究科	体育学専攻 (M)	20	—	40	
		(D)	3	—	9
理学研究科	数理学専攻 (M)	8	—	16	
	物理学専攻 (M)	12	—	24	
	化学専攻 (M)	12	—	24	
工学研究科	電気電子工学専攻 (M)	50	—	100	
	応用理化学専攻 (M)	45	—	90	
	建築土木工学専攻 (M)	25	—	50	
	機械工学専攻 (M)	75	—	150	
	医用生体工学専攻 (M)	8	—	16	
情報通信学研究科	情報通信学専攻 (M)	30	—	60	
海洋学研究科	海洋学専攻 (M)	20	—	40	
医学研究科	医科学専攻 (M)	10	—	20	
	先端医科学専攻(4年制D) (D)	35	—	140	
健康科学研究科	看護学専攻 (M)	10	—	20	
	保健福祉学専攻 (M)	10	—	20	
農学研究科	農学専攻 (M)	12	—	24	
生物学研究科	生物学専攻 (M)	8	—	16	
計		563	—	1277	

東海大学大学院

研究科	専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	備考	変更の事由
総合理工学研究科	総合理工学専攻 (D)	35	—	105		
生物科学研究科	生物科学専攻 (D)	10	—	30		
文学研究科	文明研究専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
	史学専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
	日本文学専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
	英文学専攻 (M)	4	—	8		
		(D)	2	—	6	
	コミュニケーション学専攻 (M)	8	—	16		
		(D)	4	—	12	
観光学専攻 (M)	8	—	16			
政治学研究科	政治学専攻 (M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15	
経済学研究科	応用経済学専攻 (M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15	
法学研究科	法学専攻 (M)	10	—	20		
		(D)	5	—	15	
人間環境学研究科	人間環境学専攻 (M)	10	—	20		
芸術学研究科	音響芸術専攻 (M)	4	—	8		
	造形芸術専攻 (M)	4	—	8		
体育学研究科	体育学専攻 (M)	20	—	40		
		(D)	3	—	9	
理学研究科	数理学専攻 (M)	8	—	16		
	物理学専攻 (M)	12	—	24		
	化学専攻 (M)	12	—	24		
工学研究科	電気電子工学専攻 (M)	50	—	100		
	応用理化学専攻 (M)	45	—	90		
	建築土木工学専攻 (M)	25	—	50		
	機械工学専攻 (M)	75	—	150		
	医用生体工学専攻 (M)	8	—	16		
情報通信学研究科	情報通信学専攻 (M)	30	—	60		
海洋学研究科	海洋学専攻 (M)	20	—	40		
医学研究科	医科学専攻 (M)	10	—	20		
	先端医科学専攻(4年制D) (D)	35	—	140		
健康科学研究科	看護学専攻 (M)	10	—	20		
	保健福祉学専攻 (M)	10	—	20		
農学研究科	農学専攻 (M)	12	—	24		
生物学研究科	生物学専攻 (M)	8	—	16		
計		563	—	1277		